

K-502

米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内
埋蔵文化財調査報告書

第3集

昭和52年3月

米沢市教育委員会
地域振興整備公団

米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内
埋蔵文化財調査報告書

第 3 集

八幡原中核工業団地内遺跡調査団編著

昭和 52 年 3 月

はじめに

過去3ヶ年の最終年度の調査を完了してここに、報告書を刊行できましたこと、まことに嬉しく思います。

本書で最終の報告書が完結でき、しかも、本市未解の先史分野に裨益すること多大の成果を得ました。それだけに広く、地域先史研究の前途に曙光となれば、望外の喜びであります。

とくに、地域振興整備公団米沢開発所長沢田萬勝さん、調査委員会柏倉亮吉委員長をはじめ委員各位、並びに、現地調査員の調査期間中のご理解、ご協力にあらためて厚く御礼を申し上げます。

昭和52年3月

米沢市教育委員会

教育長 北目二郎

例　　言

1. 本書は、山形県米沢市東郊の八幡原工業団地造成予定地内の文化財調査にかかる3年次の報告書である。
2. 発掘調査は1976年5月1日から10月30日まで、遺物整理は11月1日から翌1977年3月31日まで行なった。発掘調査にあたっては、第11章にかかげた調査員以外に、置賜考古学会、まんぎり会の会員および山形大学、東北福祉大学の学生諸君ならびに米沢女子高等学校の生徒諸君の協力をも得ることができた。さらに、新潟大学医学部教授小片保先生のご参加をいただいたことは望外の喜びである。記して感謝申し上げる。
3. 発掘調査および遺物整理については、つきの諸氏および諸機関から種々なるご指導、ご助言をたまわった（敬称略、ABC順）。あわせて感謝申し上げる。
阿部義平、安孫子昭二、保角里志、藤沼邦彦、川崎利夫、小林達雄、工藤雅樹、中島寛丹羽茂、酒井忠一、佐久木洋治、佐藤禎宏、佐藤鎮雄、佐藤庄一、芹沢長介、渋谷孝雄、鈴木和夫、鈴木雅宏、高橋郁夫、東海林次男、上野秀一、氏家和典、宇野修平、横山昭男、文化庁、宮城県教育委員会文化財保護課、置賜考古学会、まんぎり会、札幌市教育委員会文化財保護課、東北大学文学部考古学研究室、東北歴史資料館、致道博物館、山形大学教育学部歴史学研究室、山形県教育委員会文化課、山形県立博物館、山形考古学会。
4. 本書の執筆、土器の実測、図版等は手塚孝が担当し、石器の実測に関しては佐藤昭弘君に協力願った。しかしながら公務その他の都合で執筆に加わらなかった調査員各位にも資料整理の段階で種々の考察、資料提供その他の作業をお願いした。その限りにおいて、本書は全調査員の著作であるといわなければならない。なお、編集は加藤稔が担当し、責任校正・総括は手塚孝、金子正広がその任務にあたった。

1977年3月

米沢市・八幡原埋蔵文化財発掘調査団長

柏　倉　亮　吉

本文目次

はじめに

例　　言

第Ⅰ部 序　　論

第11章 昭和51年度 発掘調査の経過	1
---------------------------	---

第Ⅱ部 各　　論

第12章 №15（慶治清水）遺跡	7
------------------------	---

1 遺跡の立地と地形	7
2 調査の経過	7
3 層位	8
4 遺物	9
5 まとめ	9

第13章 №17（清水北A）遺跡	10
------------------------	----

1 位置と地形	10
2 調査の経過	10
3 層位	10
4 まとめ	11

第14章 №25（八幡原A）遺跡	12
------------------------	----

1 遺跡の概要	12
2 調査の経過	12
3 層位	14
4 遺構	14
5 遺構の機能について	21
6 遺構の年代	22
7 遺物	23

第15章 №26（八幡原B）遺跡	72
------------------------	----

1 遺跡の概要	72
2 調査の経過	72
3 遺構	73
4 出土遺物	90
5 遺構の年代決定	104
6 近代の遺構	105

第16章 №30・31（竹井境A・竹井）遺跡	117
------------------------------	-----

1 遺跡の概要	117
2 遺跡の立地	117

付 図 目 次

卷頭図版一 八幡原No.30, 31 遺跡出土土偶
卷頭図版二 米沢市八幡原遺跡群周辺の航空写真
卷頭図版三 米沢市八幡原遺跡群周辺の地形図

第12章 No.15(慶治清水)遺跡

第 1 図 八幡原No.15, 17 遺跡グリッド配図	8
第 2 図 八幡原No.15 遺跡セクション図	7
第 3 図 八幡原No.15 遺跡出土石器実測図	9

第13章 No.17(清水北A)遺跡

第 4 図 八幡原No.17 遺跡セクション図	11
-------------------------	----

第14章 No.25(八幡原A)遺跡

第 5 図 八幡原No.25 遺跡8-A~D区西壁セクション図	13
第 6 図 八幡原No.25 遺跡遺構配図	15
第 7 図 八幡原No.25 遺跡土壤実測図	16
第 8 図 八幡原No.25 遺跡土壤実測図	18
第 9 図 八幡原No.25 遺跡第2号埋甕拓影図	19
第 10 図 八幡原No.25 遺跡溝状内集石遺構実測図	21
第 11 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(1)	24
第 12 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(2)	25
第 13 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(3)	26
第 14 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(1)	27
第 15 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(2)	28
第 16 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(4)	29
第 17 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(5)	30
第 18 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(3)	31
第 19 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(4)	32
第 20 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(5)	33
第 21 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(6)	34
第 22 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(7)	35
第 23 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(8)	36
第 24 図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図(9)	37
第 25 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(6)	38
第 26 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(7)	39
第 27 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(8)	40
第 28 図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(9)	41

第 29 図	八幡原No.25 遺跡出土土器実測図⑩	42
第 30 図	八幡原No.25 遺跡出土土器実測図⑪	43
第 31 図	八幡原No.25 遺跡出土土器実測図⑫	44
第 32 図	八幡原No.25 遺跡出土土器実測図⑬	45
第 33 図	八幡原No.25 遺跡出土土器実測図⑭	46
第 34 図	八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図⑰	47
第 35 図	八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図⑱	48
第 36 図	八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図⑲	49
第 37 図	八幡原No.25 遺跡出土石器実測図(1)	50
第 38 図	八幡原No.25 遺跡出土石器実測図(2)	51
第 39 図	八幡原No.25 遺跡出土石棒実測図(3)	52
第 40 図	八幡原No.25 遺跡出土土製品実測図	53
第15章 No.26（八幡原B）遺跡		
第 41 図	八幡原No.25, 26 遺跡グリッド配図	74
第 42 図	八幡原No.26 遺跡構造配図	74
第 43 図	八幡原No.26 遺跡第3号住居跡実測図	75
第 44 図	八幡原No.26 遺跡第1号, 第2号住居跡実測図	77
第 45 図	八幡原No.26 遺跡第1号住居跡複式炉実測図	79
第 46 図	八幡原No.26 遺跡第1号土壤実測図	82
第 47 図	八幡原No.26 遺跡第1号土壤内出土の土器(1)	84
第 48 図	八幡原No.26 遺跡第1号土壤内出土の土器(2)	85
第 49 図	八幡原No.26 遺跡第1号住居跡内出土の土器	86
第 50 図	八幡原No.26 遺跡炉跡埋設土器	87
第 51 図	八幡原No.26 遺跡第1号土壤内出土の土器実測図(1)	88
第 52 図	八幡原No.26 遺跡第1号土壤内出土の土器実測図(2)	89
第 53 図	八幡原No.26 遺跡第3号埋甌拓影図	91
第 54 図	八幡原No.26 遺跡出土土器拓影図(1)	92
第 55 図	八幡原No.26 遺跡出土土器拓影図(2)	93
第 56 図	八幡原No.26 遺跡出土石器実測図(1)	101
第 57 図	八幡原No.26 遺跡出土石器実測図(2)	102
第 58 図	八幡原No.26 遺跡出土土製品実測図	104
第 59 図	八幡原No.26 遺跡第2号火葬跡実測図	105
第 60 図	八幡原No.26 遺跡第3号火葬跡実測図	106
第 61 図	八幡原No.30, 31 遺跡D区遺構全体図	
第 62 図	八幡原No.30, 31 遺跡構配図	

付 表 目 次

第11章 昭和51年度 発掘調査の経過

第 1 表 八幡原工業団地内の遺跡分布表	2
第 2 表 昭49年度発掘調査実施対象遺跡表	3
第 3 表 昭50年度発掘調査実施対象遺跡表	4
第 4 表 昭51年度発掘調査実施対象遺跡表	4
第 5 表 八幡原遺跡発掘調査結果分類表	5

第14章 №25(八幡原A)遺跡

第 6 表 土壌埋土一覧表	17
第 7 表 土壌埋土一覧表	18
第 8 表 八幡原№25 遺跡出土土器拓本分類表	54
第 9 表 八幡原№25 遺跡出土石器分類表	66
第10表 八幡原№25 遺跡出土円盤形土製品	70
第11表 八幡原№25 遺跡出土クルミ分類表	70
第12表 八幡原№25 遺跡出土クルミ形態分類表	71

第15章 №26(八幡原B)遺跡

第13表 八幡原№26 遺跡第3号住居跡内埋土一覧表	76
第14表 八幡原№26 遺跡第1号土壌内遺構分類表	80
第15表 八幡原№26 遺跡出土土器拓本分類表	94
第16表 八幡原№26 遺跡出土石器分類表	97
第17表 八幡原№26 遺跡出土土製品分類表	104
第18表 八幡原№26 遺跡第2号火葬跡土色変化分類表	105
第19表 八幡原№26 遺跡第3号火葬跡土色変化分類表	107
第20表 八幡原№26 遺跡火葬跡出土遺物表	109
第21表 八幡原№26 遺跡墓壙内出土遺物分類表	111

図版目次

- 第一 図 版 八幡原No.15 遺跡の発掘(一)
1 発掘前状況
2 発掘状況
- 第二 図 版 八幡原No.15 遺跡の発掘(二)
- 第三 図 版 八幡原No.17 遺跡の発掘(一)
1 円形石製品出土状況
2 発掘状況遠景
- 第四 図 版 八幡原No.17 遺跡の発掘(二)
1 発発掘状況
2 F-12区東壁面セクション
- 第五 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(一)
1 発掘前状況
2 発掘状況
- 第六 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(二)
1 発掘状況
2 発掘状況
- 第六 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(三)
1 B-A~D区西壁セクション
2 同上 全景
- 第七 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(四)
1 B 土壌群確認状況
2 溝状遺構確認状況
- 第八 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(五)
1 第6号土壌断面
2 第6号土壌完掘状況
- 第九 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(六)
1 第7号土壌断面
2 第7号土壌断面
- 第十 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(七)
1 第9号土壌断面
2 第9号土壌完掘状況
- 第十一 図 版 八幡原No.25 遺跡の発掘(八)
1 第11号土壌断面

2 第11号土壤完掘状況

第十二図版 八幡原No.25遺跡の発掘(九)

1 溝状造構確認状況

2 溝状造構完掘状況(その1)

第十三図版 八幡原No.25の発掘(十)

1 溝状造構完掘状況(その2)

2 溝状造構内集石

第十四図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十一)

1 石器出土状況(C-5区第3層No.9)

2 同上(C-8区第3層No.12)

第十五図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十二)

1 石器出土状況(C-6区第3層No.1)

2 同上(C-5区第3層No.2)

第十六図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十三)

1 石槍出土状況(B-7区第5層No.5)

2 土製耳飾り(C-5区第11層No.1)

第十七図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十四)

1 フレーク群出土状況(C-8区第2層下)

2 同上 出土状況

第十八図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十五)

1 フレーク群出土状況

2 フレーク群内の石棒出土状況

第十九図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十六)

1 木材出土状況(D-5区第2層)

2 同上 近景

第二十図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十七)

1 木柱出土状況(D-6区第2層)

2 同上(D-6区第2層)

第二十一図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十八)

1 木材出土状況(D-5区第2層下)

2 漆器出土状況(D-6区第2層下)

第二十二図版 八幡原No.25遺跡の発掘(十九)

1 一括土器出土状況(C-2区第4層)

2 同上(C-5区第3層)

第二十三図版 八幡原No.25遺跡の発掘(二十)

1 一括土器出土状況(C-3区第4層)

2 同上(D-6区第4層)

第二十四図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十一)

- 1 一括土器出土状況(C - 8 区第4層)
- 2 同上 拡大

第二十五図版 八幡原№26 遺跡の発掘(二十二)

- 1 遺物出土状況(C - 5 区第4層)
- 2 同上(C , D - 7 , 8 区第4層)

第二十六図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十三)

- 1 ボタン状貼り付文と炭化物出土状況(C - 6 区第4層)
- 2 一括土器出土状況(C - 8 区第4層)

第二十七図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十四)

- 1 遺物出土状況(B ~ D - 5 ~ 8 区第4層)
- 2 同上(B ~ C - 6 ~ 9 区第4層)

第二十八図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十五)

- 1 一括土器出土状況(C - 3 区第3層下)
- 2 同上(C - 2 , 3 区第3層下)

第二十九図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十六)

- 1 一括土器出土状況(C - 2 区 , 第3層下 A № 8)
- 2 同上(C - 2 区第3層下 A № 22)

第三十図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十七)

- 1 一括土器出土状況(C , D - 3 区第3層下)
- 2 同上 拡大

第三十一図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十八)

- 1 一括土器出土状況(C - 1 区第3層下)
- 2 同上(B ~ C - 2 区第3層下)

第三十二図版 八幡原№25 遺跡の発掘(二十九)

- 1 一括土器出土状況(C - 3 区第3層下)
- 2 同上(C - 2 区第3層 A № 9)

第三十三図版 八幡原№25 遺跡の発掘(三十)

- 1 一括土器出土状況(C - 1 区第3層)
- 2 同上(C - 2 区第3層 A № 21)

第三十四図版 八幡原№25 遺跡の発掘(三十一)

- 1 一括土器出土状況(B - 2 区第3層下 A № 33)
- 2 同上 拡大

第三十五図版 八幡原№25 遺跡の発掘(三十二)

- 1 遺物出土状況(C , D - 3 区第3層下 A № 29 , 30 , 33 , 35 , 38)
- 2 同上(C - 3 区第3層下)

第三十六図版 八幡原№25 遺跡の発掘(三十三)

1 遺物出土状況(B , C - 3 , 4 区第3層下)

2 同上(C - 3 , 4 区第3層下)

第三十七図版 八幡原No 25 遺跡の発掘(三十四)

1 第2号埋甕出土状況

2 第1号埋甕出土状況

第三十八図版 八幡原No 25 遺跡の発掘(三十五)

1 一括土器出土状況(D - 4 区第2層下)

2 同上 拡大

第三十九図版 八幡原No 25 遺跡の発掘(三十六)

1 一括土器出土状況(C - 2 区第2層)

2 同上(C - 2 区第2層下)

第四十図版 八幡原No 25 遺跡の発掘(三十七)

1 一括土器出土状況(D - 8 区第2層下)

2 同上 拡大

第四十一図版 八幡原No 25 遺跡の発掘(三十八)

1 一括土器出土状況(D - 6 区第2層下)

2 同上一括土器から発見された漆器

第四十二図版 八幡原No 25 遺跡出土の石器(一)

1 石鏃(腹面)

2 同上(背面)

第四十三図版 八幡原No 25 遺跡出土の石器(二)

1 石匙(腹面)

2 同上(背面)

第四十四図版 八幡原No 25 遺跡出土の石器(三)

1 石範状石器(腹面)

2 同上(背面)

第四十五図版 八幡原No 25 遺跡出土の縄文土器(一)

1 B群土器(C - 8 区第5層)

2 C群土器(C - 3 区第4層)

第四十六図版 八幡原No 25 遺跡出土の縄文土器(二)

1 B群土器(C - 5 区第5層)

2 C群土器(D - 5 区第4層)

第四十七図版 八幡原No 25 遺跡出土の縄文土器(三)

1 C群土器(D - 8 区第4層)

2 C群土器(C - 5 区第4層)

第四十八図版 八幡原No 25 遺跡出土の縄文土器(四)

1 C群土器(C - 2 区第4層下)

2 D群土器(C-6区第3層)

第四十九回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(五)

1 D群土器(D-1区第3層)

2 D群土器(C-2区第3層下)

第五十回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(六)

1 D群土器(B-4区第3層下)

2 D群土器(C-5区第3層下)

第五十一回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(七)

1 D群土器(C-6区第3層)

2 D群土器(C-3区第3層)

第五十二回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(八)

1 E群土器(1号埋甕)

2 同上(2号埋甕)

第五十三回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(九)

1 E群土器(D-6区第2層下)

2 E群土器(D-4区第2層下)

第五十四回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(十)

1 E群土器(C-2区第2層下)

2 E群土器(C-4区第2層)

第五十五回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(十一)

1 E群土器(D-7区第2層)

2 E群土器(C-6区第2層)

第五十六回版 八幡原No.25 遺跡出土の縄文土器(十二)

1 E群土器(C-3区第2層)

2 E群土器(No.25 遺跡出土の台付土器)

第五十七回版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(一)

1 第4層1グループ(表)

2 同上1グループ(裏)上叩き(1a b, 2a b)

第五十八回版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(二)

1 第3層1グループ(表)

2 同上1グループ(裏)上叩き(1a b), 下叩き(2a b, 3a b)

第五十九回版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(三)

1 第4層2グループ(表)

2 同上2グループ(裏)完形品1a, 上叩き(2a b~10a b), 下叩き
(11a b~17a b)

第六十回版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(四)

1 第4層3グループ(表)

2 同上3グループ(裏)上叩き(1ab~3ab)

第六十一図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(五)

1 第4層4グループ(表)

2 同上4グループ(裏)上叩き(1ab~4ab), 下叩き(5ab~9ab)

第六十二図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(六)

1 第4層5グループ(表)

2 同上5グループ(裏)上叩き(1ab~3ab)

第六十三図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(七)

1 第4層6グループ(表)

2 同上6グループ(裏)上叩き(1ab~7ab), 下叩き(8ab~14ab)

第六十四図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(八)

1 第4層7グループ(表)

2 同上7グループ(裏)上叩き(1ab~4ab), 下叩き(5ab~11ab)

第六十五図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(九)

1 第4層8グループ(表)

2 同上8グループ(裏)下叩き(1ab~10ab)

第六十六図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十)

1 第4層9グループ(表)

2 同上9グループ(裏)上叩き(1ab~4ab), 下叩き(5ab~9ab)

第六十七図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十一)

1 第3層9グループ(表)

2 同上9グループ(裏)上叩き(1ab~6ab), 下叩き(7ab~14ab)

第六十八図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十二)

1 第4層10グループ(表)

2 同上10グループ(裏)上叩き(1ab), 下叩き(2ab)

第六十九図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十三)

1 第3層10グループ(表)

2 同上10グループ(裏)上叩き(1ab), 下叩き(2ab~9ab)

第七十図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十四)

1 第4層11グループ(表)

2 同上11グループ(裏)下叩き(1ab~3ab)

第七十一図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十五)

1 第3層11グループ(表)

2 同上11グループ(裏)上叩き(1ab~4ab), 下叩き(5ab~10ab)

第七十二図版 八幡原No.25 遺跡出土のクルミ(十六)

1 第4層12グループ(表)

2 同上12グループ(裏)上叩き(1ab~6ab), 下叩き(7ab~11ab)

- 第七十三図版 八幡原No 25 遺跡出土のケルミ（十七）
1 第4層13グループ（表）
2 同上13グループ（裏）上叩き（1a b），下叩き（2a b～13a b）
- 第七十四図版 八幡原No 25 遺跡出土のケルミ（十八）
1 第3層13グループ（表）
2 同上13グループ（裏）上叩き（1a b～8a b），下叩き（9a b～10a b）
- 第七十五図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（一）
1 発掘前状況
2 発掘状況
- 第七十六図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（二）
1 発掘状況
2 同上
- 第七十七図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（三）
1 第1号住居跡確認プラン状況
2 第1号住居跡完掘状況 拡大
- 第七十八図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（四）
1 第1号住居跡内複式炉
2 第1号住居跡完掘状況 遠景
- 第七十九図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（五）
1 第1号住居跡埋設土器内部石組状況
2 第1号住居跡小ピット群
- 第八十図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（六）
1 第1号土壤完掘状況
2 同上 拡大
- 第八十一図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（七）
1 第9号，14号墓壙断面
2 第1号墓壙断面
- 第八十二図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（八）
1 第2号墓壙完掘状況
2 同上出土キセル，歯
- 第八十三図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（九）
1 第3号墓壙上部の蓋石
2 同上内人骨理葬状況
- 第八十四図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（十）
1 第3号墓壙内出土人骨 拡大
2 同上頭骨取り上げ後の太腿骨の確認状況
- 第八十五図版 八幡原No 26 遺跡の発掘（十一）

1 第4号墓壙確認状況

2 同上内遺物出土状況

第八十六図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十二)

1 第8号墓壙(手前), 第9号墓壙(右)完掘状況

2 第8号墓壙内遺物出土状況

第八十七図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十三)

1 第11号墓壙内部に残る石組

2 同上完掘状況

第八十八図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十四)

1 第7号, 4号, 3号, 5号, 8号, 15号, 墓壙全景

2 第17号, 10号, 11号, 12号, 13号, 墓壙全景

第八十九図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十五)

1 第2号火葬跡確認状況

2 同上全景

第九十図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十六)

1 第4号火葬跡確認状況

2 同上出土遺物状況

第九十一図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十七)

1 石器出土状況(第Ⅳ区第3層№14)

2 石器出土状況(第Ⅴ区第3層№15)

第九十二図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十八)

1 石器出土状況(F-16区第2層№5)

2 同上出土状況(第Ⅲ区第3層№6)

第九十三図版 八幡原№26 遺跡の発掘(十九)

1 石器出土状況(第Ⅴ区第3層№10)

2 石器出土状況(I-9区第4層№4)

第九十四図版 八幡原№26 遺跡の発掘(二十)

1 石器出土状況(G-8区第3層)

2 石器出土状況(Q-7区Ⅲ層№4)

第九十五図版 八幡原№26 遺跡の発掘(二十一)

1 石器出土状況(G-8区第3層)

2 第1号住居跡内北壁上部出土磨製石斧出土状況

第九十六図版 八幡原№26 遺跡の発掘(二十二)

1 第4号埋甕

2 同上 拡大

第九十七図版 八幡原№26 遺跡出土の石器(一)

1 石器(腹面)

2 同上(背面)

第九十八図版 八幡原№26 遺跡出土の石器(二)

- 1 石匙・石錐(腹面)

- 2 同上(背面)

第九十九図版 八幡原№26 遺跡出土の石器(三)

- 1 石窓状石器(腹面)

- 2 同上(背面)

第一百 図版 八幡原№26 遺跡出土の石器(四)

- 1 打製石斧(腹面)

- 2 同上(背面)

第一百一図版 八幡原№26 遺跡出土の縄文土器(一)

- 1 第1号埋甕

- 2 第2号埋甕

第一百二図版 八幡原№26 遺跡出土の縄文土器(二)

- 1 第3号埋甕

- 2 第4号埋甕

第一百三図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(一)

- 1 第1号墓壙出土の頭髪

- 2 第1号墓壙出土骨片

第一百四図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(二)

- 1 第1号墓壙出土古銭,釘,男性用笄

- 2 第1号墓壙出土古銭拡大

第一百五図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(三)

- 1 第2号墓壙出土骨片

- 2 第2号墓壙出土竹管

第一百六図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(四)

- 1 第3号墓壙出土の棺桶に使用した味噌桶

- 2 同上底部の刻印 亜

- 3 同上腹部の刻印 亜

第一百七図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(五)

- 1 第4号墓壙出土肉質分の付着した骨(部分)

- 2 第4号墓壙出土 頭骨

第一百八図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(六)

- 1 第4号墓壙出土 袋

- 2 第4号墓壙出土 古銭

第一百九図版 八幡原№26 遺跡墓壙出土の遺物(七)

- 1 第4号墓壙出土肉質分が付着した布片

2 第4号墓墳出土 鉄釘

第一百十図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(八)

- 1 第4号墓墳出土根付(腹面)
- 2 同上根付(背面)

第一百十一図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(九)

- 1 第4号墓墳出土キセル
- 2 第4号墓墳出土キセル、根付、古錢

第一百十二図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十)

- 1 第6号墓墳出土古錢
- 2 第7号墓墳出土骨片(大腿骨?)

第一百十三図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十一)

- 1 第8号墓墳出土頭髪
- 2 第8号墓墳出土内質分の付着した布片

第一百十四図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十二)

- 1 第8号墓墳出土漆塗料片
- 2 第8号墓墳出土布片

第一百十五図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十三)

- 1 第8号墓墳出土藁草煎じ用と思われる急須(側面右)
- 2 同上(正面)

第一百十六図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十四)

- 1 第8号墓墳出土墨書「三百文也」朱書「も三十八」(底部)
- 2 同上(側面左)

第一百十七図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十五)

- 1 第8号墓墳出土杯(大)(上面)
- 2 同上

第一百十八図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十六)

- 1 第8号墓墳出土杯(中)
- 2 同上 杯(小)(上面)

第一百十九図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十七)

- 1 第8号墓墳出土杯
- 2 同上 杯(上面)

第一百二十図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十八)

- 1 第8号墓墳出土左から徳久利、青硝子瓶、急須、杯
- 2 同上青硝子瓶「GRANULARCITATE」「OFMACNESIA」

第一百二十一図版 八幡原No 26 遺跡墓墳出土の遺物(十九)

- 1 第8号墓墳出土 徳久利
- 2 第8号墓墳出土 青硝子瓶

第一百二十二回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十）

- 1 第9号墓壙出土 鉄釘
- 2 同上 鉄釘

第一百二十三回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十一）

- 1 第10号墓壙出土 頭髪
- 2 第10号墓壙出土 皮製品（キセル入），爪（足部環指）

第一百二十四回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十二）

- 1 第10号墓壙 根付玉
- 2 第10号墓壙 根付金具

第一百二十五回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十三）

- 1 第10号墓壙 鉄釘
- 2 同上 鉄釘

第一百二十六回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十四）

- 1 第11号墓壙出土 頭髪
- 2 第11号墓壙出土 爪（手部）

第一百二十七回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十五）

- 1 第11号墓壙出土 韶
- 2 第11号墓壙出土 鉄釘

第一百二十八回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十六）

- 1 第11号墓壙出土 木片
- 2 同上 木片

第一百二十九回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十七）

- 1 第13号墓壙出土 頭髪，数珠
- 2 同上 骨片（大腿骨？）
- 3 同上 韶

第一百三十回版 八幡原No 26 遺跡墓壙出土の遺物（二十八）

- 1 第16号墓壙出土 頭髪
- 2 第16号墓壙出土 鉄破片

第一百三十一回版 八幡原No 26 遺跡火葬跡出土の遺物（一）

- 1 第1号火葬跡 骨片
- 2 同上 徳久利破片

第一百三十二回版 八幡原No 26 遺跡火葬跡出土の遺物（二）

- 1 第3号火葬跡 小ビン破片
- 2 同上

第一百三十三回版 八幡原No 26 遺跡火葬跡出土の遺物（三）

- 1 第4号火葬跡 鉄片
- 2 同上 小ビン破片

第一百三十四図版 八幡原No. 26 遺跡火葬跡出土の遺物（四）

- 1 第4号火葬跡 小ピン
- 2 同上 底面「駒田」の刻印あり

第一百三十五図版 八幡原No. 26 遺跡火葬跡出土の遺物（五）

- 1 第1号火葬跡 小ピンとその溶解物
- 2 同上 お歯黒受皿使用か？ 「娟唐草文」

第一百三十六図版 八幡原No. 26 遺跡火葬跡出土の遺物（六）

- 1 第4号火葬跡 骨片
- 2 同上 術

第一百三十七図版 八幡原No. 26 遺跡火葬跡出土の遺物（七）

- 1 第4号火葬跡 杯、皿、小ピン
- 2 同上 数珠小玉（ガラス）、ガラス小玉溶解物、ボタン、簪

第一百三十八図版 八幡原No. 26 遺跡火葬跡出土の遺物（八）

- 1 第4号火葬跡 炭化小豆
- 2 第9号火葬跡 骨片

第一百三十九図版 八幡原No. 32 遺跡の発掘（一）八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（一）

- 1 発掘前状況
- 2 発掘前状況

第一百四十図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（二）

- 1 B区発掘状況
- 2 B区発掘全景

第一百四十一図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（三）

- 1 第1号土壙内に堆積する砾群（河川の流送作用によって集石）
- 2 同上 全景（河状をなす露呈面）

第一百四十二図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（四）

- 1 B-10号住居跡発掘状況
- 2 同上 完掘状況

第一百四十三図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（五）

- 1 B-10号住居跡壺形土器出土状況
- 2 同上 壺形土器出土状況

第一百四十四図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（六）

- 1 B-10号住居跡一括土器出土状況
- 2 同上 一括土器出土状況

第一百四十五図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（七）

- 1 B-10号住居跡壺形土器出土状況
- 2 同上 壺形土器出土状況

第一百四十六図版 八幡原No. 30・31 遺跡の発掘（八）

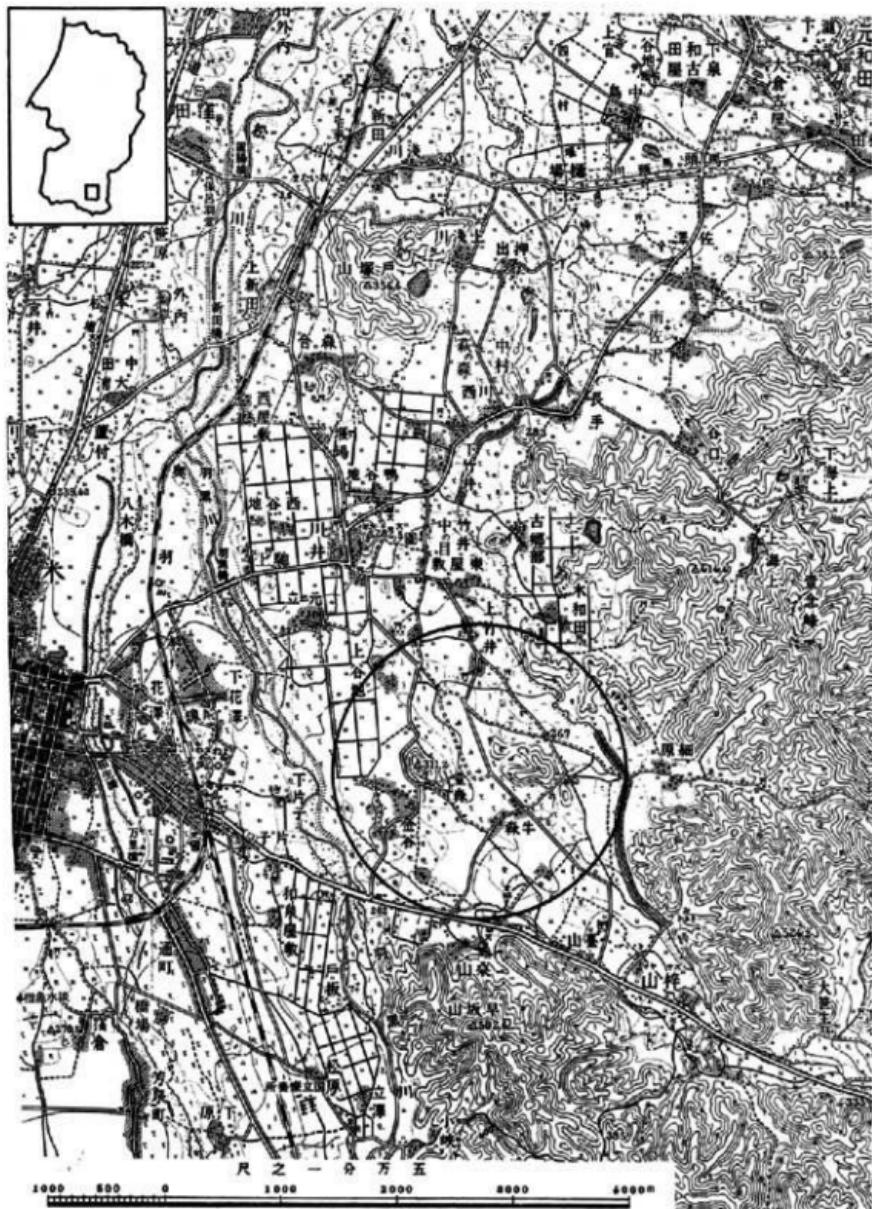
- 1 B-4・5号住居跡完掘状況
 - 2 同上 遺物出土状況
- 第一百四十七図版 八幡原No 30・31 遺跡の発掘(九)
- 1 B-11号住居跡確認状況
 - 2 同上 完掘状況
- 第一百四十八図版 八幡原No 30・31 遺跡の発掘(十)
- 1 B-11号住居跡東壁立ち上り状況
 - 2 同上 住居跡内遺物出土状況
- 第一百四十九図版 八幡原No 30・31 遺跡の発掘(十一)
- 1 B-8号住居跡発掘状況
 - 2 同上 完掘状況 南側より
- 第一百五十図版 八幡原No 30・31 遺跡の発掘(十二)
- 1 B-8号住居跡完掘状況 北側より
 - 2 同上 カマド付近遺物出土状況
- 第一百五十一図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の縄文土器(一)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十二図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の縄文土器(二)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十三図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の縄文土器(三)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十四図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の縄文土器(四)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十五図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の縄文土器(五)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十六図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の土偶(一)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十七図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の土偶(二)
- 八幡原No 30・31 遺跡出土の縄文土器(六)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十八図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の土節器、須恵器(一)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百五十九図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の土節器、須恵器(二)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の土節器、須恵器(三)
- 1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十一図版 八幡原No 30・31 遺跡出土の土節器、須恵器(四)
- 1 B-10号住居跡出土

- 第一百六十二図版 八幡原№30・31遺跡出土の土師器、須恵器(五)
1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十三図版 八幡原№30・31遺跡出土の石器(一)
1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十四図版 八幡原№30・31遺跡出土の石器(二)
1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十五図版 八幡原№30・31遺跡出土の石器(三)
1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十六図版 八幡原№30・31遺跡出土の石器(四)
1 B-10号住居跡出土
- 第一百六十七図版 八幡原№30・31遺跡出土の鉄器(一)
1 第4号住居跡 錐(A区-第4層)
2 第6号住居跡鉄釘(B区-埋土)
- 第一百六十八図版 八幡原№30・31遺跡出土の鉄器(二)
1 第6号住居跡鉄釘(B区-埋土)
2 同上





卷頭図版三



第 I 部 序 論

第11章 昭和51年度発掘調査経過

1. 昭和51年度の発掘調査は、前年度（昭50年）と同様、5月1日～10月31日までの（148日、盆休みを除く）半年の予定で開始された。

調査体制は従来通り、柏倉調査団長、加藤調査副団長の指導のもと、手塚・横戸両調査員が現場を担当した。

手塚は第1班を主宰し、No.15, 17, 25, 26の4遺跡を、横戸は第2班を主宰してNo.30, 31, 32の3遺跡を担当した。

手塚調査員の担当する遺跡は、八幡原遺跡群の中でも一大中心地であり、前年度のNo.24遺跡とともにその調査結果が大いに注目される所であった。ただ遺跡の大部分が樹林に囲われており、発掘面積が極めて限られてしまったので、この地区の遺跡の全貌を知ることができなかったのは惜しまれる。だが出土した遺構、遺物の質・量ともに制限された調査範囲の中でも、充実した成果があったことは、八幡原遺跡の中心部というべき名を具体的に証明したものと言えよう。

さらに、No.26遺跡から出土した明治時代初期のものと思われる「人骨」について、人類学の小片保新潟大学医学部教授の参加をいただいたことは、本調査の中でも特筆してよいことと思われる。

一方、横戸調査員の担当する地区は、前年度（昭50）にひきつづいて行なわれたもので、No.40遺跡（牛森古墳、本報告書第2集）に葬葬された人物との関連を濃厚とする遺跡であり、その調査結果が注目されて来ている。

ちなみに、30数軒に及ぶ住居址の発掘は、No.30, 31遺跡と、No.29遺跡を結ぶ地区とともに、今後多数の住居が存在することを示唆するものであり、これを完全に調査すれば、八幡原遺跡の中だけでも、奈良、平安時代の社会形態を知る上で貴重な貢献を残すものであったことは言うまでもない。

以下、過去2ケ年の発掘調査の経過をまとめてみる。

2. 八幡原中核工業団地造成予定地内には、昭和48年、山形県文化課の分布調査によって

以下のような遺跡の存在が指定された。

第1表 八幡原工業団地内の遺跡分布表

遺跡 No	推定面積	縄年期	備考
No 15	2500 m ²	縄文	
No 16	24000 m ²	縄文(早・中・後期)	手塚, 他
No 17	2500 m ²	縄文	
No 18	4900 m ²	縄文(前期)	
No 19	11500 m ²	縄文	
No 20	1600 m ²	縄文	
No 23	3600 m ²	縄文	
No 24	10000 m ²	弥生	手塚, 他
No 25	9600 m ²	縄文(早・前・中期)	手塚, 他
No 26	1800 m ²	縄文(早・前・中期)	手塚, 他
No 27	100 m ²	?	
No 29	3600 m ²	平安	
No 30	11400 m ²	平安	手塚, 他
No 31	6300 m ²	縄文(中・後期)	手塚, 他
No 32	100 m ²	?	
No 33	5600 m ²	縄文(中・後期)	秦, 他
No 34	4900 m ²	平安	秦, 他
No 35	3600 m ²	縄文	
No 36	5000 m ²	縄文・平安	
No 37	3600 m ²	歴史	
No 39	2000 m ²	鎌倉以降	
No 40	4200 m ²	古墳	手塚, 他
No 41	2500 m ²	縄文	
No 42	9000 m ²	歴史	
計	133900 m ²		

以上 24 遺跡のうち、20 遺跡（。印）が、造成の必要上、調査を必要とするものであった。その推定面積は、 $111900 m^2$ である。

3. 発掘調査は、当初昭和 49 年度から昭和 52 年度の 3 ヶ年半と指示され、後に昭和 51 年度までの 2 ヶ年半と変更された。

以下、20 遺跡調査の着手の基本的な手順として、調査団の次のような区分を行なった。

- (1) 造成工事用道路、幹線道路などにかかるもの。
- (2) 工場配置予定地
- (3) その他ユーティリティー用地

なお、この順序は、未買収地の存在と、樹林地の関係から、必ずしも一貫したとはいえない部分がある。とくに「緑の工業団地」を指向するという説明によって、樹林地は原則として造成しない。つまり現状変更のための発掘調査を必要としないという方針が調査委員会の席上再三にわたって強調された。

4. 昭和 49 年度は、以下の発掘を行なった。

※ 八幡原埋蔵文化財調査報告書 第 1 集参照

第 2 表 昭和 49 年度発掘調査実施対象遺跡表

遺跡 No.	推定面積	調査実施面積	備考
No. 18	$4900 m^2$	$18 m^2$	試掘調査
No. 19	$11500 m^2$	$952 m^2$	
No. 23	$3600 m^2$	$40 m^2$	試掘調査
No. 24	$10000 m^2$	$468 m^2$	
No. 35	$3600 m^2$	$216 m^2$	
No. 36	$5000 m^2$	$172 m^2$	
No. 37	$3600 m^2$	$416 m^2$	
No. 39	$2000 m^2$	$200 m^2$	
計	$44200 m^2$	$2482 m^2$	

5. 昭和50年度は、以下の発掘を行なった。

第3表 昭和50年度発掘調査実施対象遺跡表

遺跡 No.	推定面積	調査実施面積	備考
No. 24	9532 m ²	724 m ²	
No. 30	11400 m ²	} 6000 m ²	分布調査により遺跡面積が90000 m ² と判明
No. 31	6300 m ²		
No. 40	4200 m ²	500 m ²	
計	31432 m ²	7224 m ²	

* 推定面積は、既調査面積を除いた。

6. 昭和51年度においては、「表2・3」に含まれない遺跡No.15, 16, 17, 25, 26, 27, 29, 32, 33, 34, 41, 42, 及び当面造成の遅れると判断されるコーティリティ用地等を除外し、又、従来の実績からする調査能力を考慮して以下の発掘調査を行なった。

第4表 昭和51年度発掘調査実施対象遺跡表

遺跡 No.	推定面積	調査実施面積	備考
No. 15	1250 m ²	153 m ²	
No. 17	750 m ²	64 m ²	
No. 25	9600 m ²	510 m ²	
No. 26	18000 m ²	1500 m ²	
No. 30 No. 31	} 90000 m ²	} 6000 m ²	
No. 31	100 m ²	20 m ²	
計	119700 m ²	8247 m ²	

7. 以上「表1」と「表2, 3, 4」との関係を昭和49～51年度の調査結果に従って検討した結果、以下のように判断された。付表参照②

第5表 八幡原遺跡調査結果分類表

遺跡 No.	残存面積	調査必要面積	備考
No. 15	1097 m^2	0 m^2	昭和51年度の調査による
No. 16	24000 m^2	3000 m^2	昭和50, 51年度の分布調査により、推定面積、24000 m^2 のうち団地内3000 m^2 の調査必要と判断
No. 17	686 m^2	0	昭和51年度の調査による
No. 18	4882 m^2	3800 m^2	昭和49年度の調査による
No. 19	10548 m^2	0	昭和49年度の調査による
No. 20	1600 m^2	0	昭和49年度の調査による。
No. 23	3560 m^2	2800 m^2	昭和49年度の調査による
No. 24	8808 m^2	3700 m^2	昭和50年度の調査による
No. 25	9090 m^2	3700 m^2	昭和51年度の調査による
No. 26	16500 m^2	21300 m^2	昭和51年度の調査により分布範囲拡大判断
No. 27	100 m^2	100 m^2	昭和51年度の調査による
No. 29	3600 m^2	3600 m^2	No. 30, 31の範囲内に含むことが昭和51年度の分布調査で判明
No. 30 No. 31	84000 m^2	6000 m^2	昭和50, 51年度の発掘調査、分布調査による
No. 32	80 m^2	0	昭和51年度調査による
No. 33 No. 34	5600 m^2 4900 m^2	0 0	緑地帯のため保存可能
No. 35	3384 m^2	0	昭和49年度の調査による
No. 36	4828 m^2	0	昭和49年度の調査による

No. 37	3582 m ²	0	昭和49年度の調査による
No. 39	1800 m ²	0	昭和49年度の調査による
No. 40	3700 m ²	0	昭和50年度の調査による
No. 41	2500 m ²	2500 m ²	調査未着手。ユティリティ用地
No. 42	9000 m ²	9000 m ²	調査未着手。ユティリティ用地
No. 45	45000 m ²	10000 m ²	昭和50年度の分布調査によって判明、 10000 m ² の面積が工業団地内に加わる。
計	252845 m ²	69500 m ²	

以上の調査未完了遺跡群のうち、その遺跡の性格、重要度、分布範囲及び完全調査の困難度などから判断して、今後の経続調査を必要とするものはNo.30, 31, No.41 No.42 No.45 計22200 m²と、現状のまま保存すべきであると判断されるのは、No.23, 24, 25, 26 貴跡であることを、数次の調査委員会で報告した。

以下に、昭和51年度の調査団員を記しておく。（順不同）

調査団長	柏倉亮吉	山形県文化財専門委員長・山形大学名誉教授
調査副団長	加藤稔	山形工業高校教諭・山形大学講師
調査員	手塚孝（専任）	
〃	横戸昭二（専任）	
〃	橋爪健	米沢市立南原小学校教諭
〃	佐藤磧男	米沢東高等学校教諭
〃	龟田吳明	米沢女子高等学校講師
〃	海野丈芳	長井市立長井小学校教諭
〃	舟山政志	東北福祉大学生
〃	佐藤昭弘	発掘調査嘱託
事務局員	清水澄	米沢市教育委員会事務局・社会教育課長
〃	皆川恒夫	米沢市教育委員会事務局・社会教育課長補佐
〃	金子正広	米沢市教育委員会事務局・社会教育課主事
〃	佐藤知子	米沢市教育委員会事務局・社会教育課嘱託
〃	伊藤久	米沢市教育委員会事務局・社会教育課嘱託

第Ⅱ部 各論

第12章 No.15 (慶治清水) 遺跡

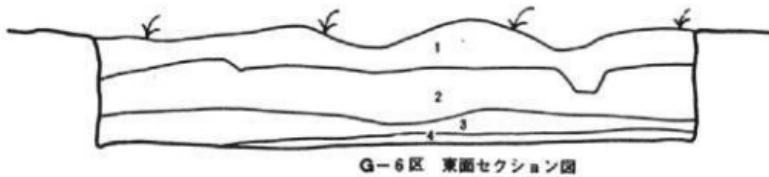
1. 遺跡の立地と地形

本遺跡は八幡原遺跡群の中心部から東側に約300m離れた小遺跡群の一部で、No.16, 17, 19, 20遺跡とともに前方の牛森山と堂森山のほぼ中間に分布している。当遺跡はこれら的小遺跡群の中でも最東部に位置し、堂森山から牛森山へとのびる微高地の端部で、標高250mである。

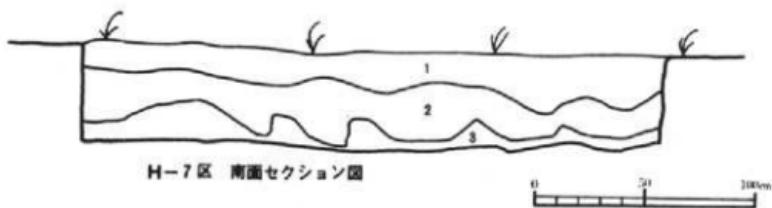
遺跡の発見は、昭和38年に地元手塚武雄氏によって発見され、石鎌、石槍等の石器類が併出する遺跡として一部注目されてきたが、後の昭和48年に県文化課の八幡原工業団地造成地内分布調査によって、50m×50mの遺跡と判断されている。

2. 調査の経過

調査は、第2号八幡原緩衝緑地整備事業（野球場12,785m²）によって以前から計画



G-6区 東面セクション図



H-7区 南面セクション図



第2図 八幡原No.15 遺跡セクション図

されて來た遺跡であったが、所々の問題で延び、今年の事業として至った。遺跡はすでに緩衝緑地整備事業地内に加わることが決定していたので、全面発掘を前提として進めた。

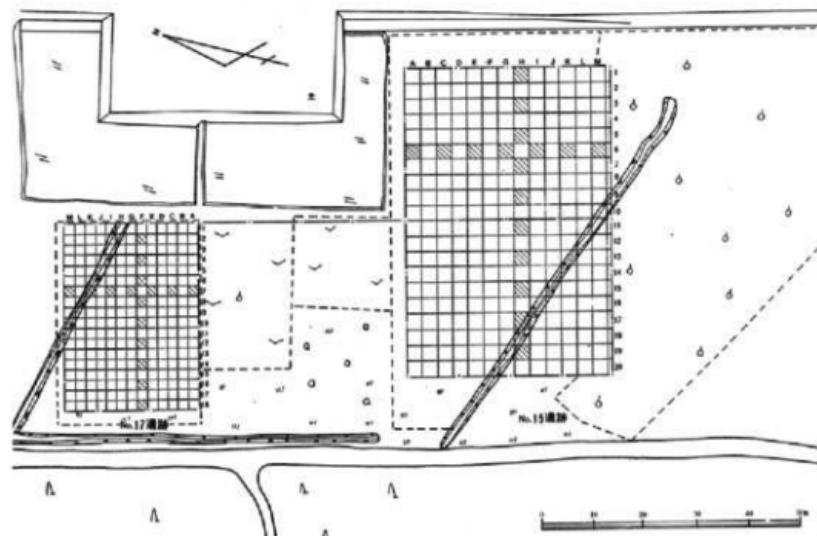
グリッドは3mグリッドを基本として遺跡の上方にはしる農道を基準線とし南北に40m、東西60mの長方形に設定した。(第1図)

調査は、遺跡の中心部に沿って十字状に掘り下げる遺構の確認を行なったが、残念ながら遺構と思われる土色変化は見られなかった。なお発掘面積は153m²、発掘期間は2日である。

3. 層位

本遺跡の基本的な層序は地山(第4層)まで4枚に分けられるが、以前ホップ畠等の開拓によってカクランを受け明瞭でない。なお、第1層から第4層までの層色は次のようにある。(第2図)

第1層表土、茶褐色黒土層(耕作土)、第2層暗黒褐色黒土層、第3層茶褐色黒土層(粘り有り)第4層黄茶褐色微砂質土層(地山)



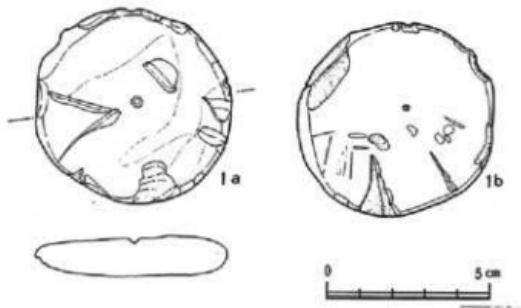
第1図 八幡原No.15, 17 遺跡グリッド配図

4. 遺物

遺物としては、土器片2点、フレーク2点、不明石製品の計5点を数える。そのうち土器片に関しては磨減が著しく、時期、年代等は不明である。

円形石製品(第3図)

径6cm、厚さ1.2cmを
計る。円形状を呈し、円
端部の両面からタッチが
加えられている。本器を
成形するために打ち込ま
れたものとみる。また1
a, 1b両面中央には約
2.5φの未貫通の凹みが
あり、器面全体もかるく
磨きが施されている。



第3図 八幡原No.15遺跡出土石器実測図

なお、当石製品は、No.30, 31遺跡から多く検出されている鉄製紡錘車に類似しており、石製紡錘車の未完成品とも推測されるが、今回は不明としておく。

5. まとめ

今回の調査で得たものとしては、土器片2点を含む石器3点のみで発掘面積153m²の中において非常に乏しい。従って本遺跡は從来の遺跡分類に従えば遺物散布地に分けられる。上記のことから考えると本遺跡は西方に位置するNo.16遺跡の範囲の一部と判断したい。

参考文献

(佐藤誠雄)(1975)「第3章分布調査の概要 第1節調査の経緯」『米沢市八幡原中核工業団地内埋蔵文化財調査報告書』第1集 米沢市教育委員会

第13章 No.17 (清水北A) 遺跡

1. 位置と地形

前のNo.15遺跡と同様の小遺跡群で、No.15遺跡と西方約100mの原野および畠の標高255.5mに位置する。

遺跡はすでに、昭和47～48年の開田によって破壊をうけ全体の $\frac{1}{3}$ のみに現存する。遺跡の発見は昭和45年筆者によって発見され、後の昭和48年、県文化課の分布調査の際に、具体的な面積として50×50mの範囲であるものと判断されている。なお当遺跡もNo.15遺跡と同様、野球場造成工事に関わる発掘調査の一貫として行なわれたものである。

2. 調査の経過

前述のように遺跡の大半は消滅している現況であるため、現存する、ホップ畠として使用された区域に300m²のグリッドを設定した。グリッドは畠にそって2mグリッドを基本に、南北26m、東西30mとし、No.15遺跡同様、十字状に掘り下げて遺構の検出、確認を行なった。

最初南北を基点に、A-17, C-17, E-17, G-17, I-17, K-17, M-17グリッドを掘り下げ、次に東西方向に、F-2, F-4, F-6, F-8, F-10, F-12, F-14, F-16, F-18, 計64m²掘り下げた。

しかし全グリッド調査範囲には、一片の遺物も含まれておらず、ただちに調査を中止し、後述のNo.25遺跡へと移った。調査期間は1.5日である。

ここに試掘を含まない分布調査の難点を指摘できよう。

3. 層位(第4図)

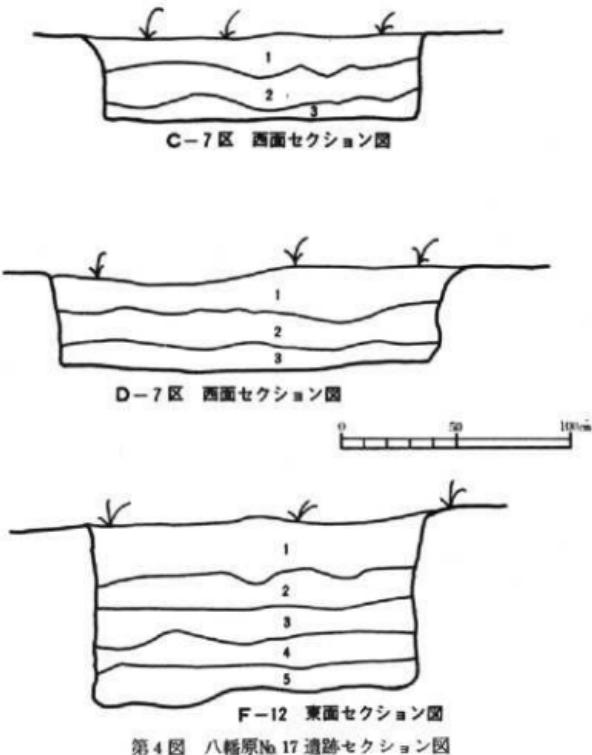
前記のNo.15遺跡と同じく、ホップ畠の際の支柱掘り下げなどによってかなり破壊をうけている。明確に判った層位をもとに述べると下記のとおりである。

第1層表土、茶褐色黒土層(耕作土)、第2層暗黒褐色土層、第3層茶褐色黒土層、(粘り有り)、第4層黄茶褐色微砂質土層、第5層黄褐色微砂質土層(地山)

4. まとめ

No.15遺跡同様、
No.16遺跡の範囲に
関わる散布地とみた
い。

参考文献
(佐藤鎮雄)
(1975)「第3章分布調査の概要 第1節調査の経緯」『米沢市八幡原中核工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書』第1集 米沢市教育委員会



第4図 八幡原No.17遺跡セクション図

第14章 No.25 (八幡原A) 遺跡

1. 遺跡の概要

No.25 遺跡は堂森山の北東 500 m, 標高 254 m, 堂森山から焼山方向にのびる舌状微高地中央に位置する。元八幡原競馬場のコースの一部で、現在は一面松林、原野となっている。本遺跡は、前方 50 m に位置する No.26 遺跡、さらに東方向 250 m に存在する No.24 遺跡とともに、八幡原遺跡群の中において最も重要な遺跡が集中する三大オアシスの一つであり、以前から注目を集めていた。

遺跡の発見は、昭和 42 年 8 月、筆者によって盆栽用松の移植の際に偶然発見したもので、以後数度の試掘を重ね、遺跡の範囲と性格の把握を試みたものである。その結果、縄文早期末、縄文前期初頭、縄文前期末、縄文中期とおおまかに 4 期の時代の遺跡の重複する複合遺跡と判明、中でも中核となるのが前期末の時期で、圧倒的に遺物が見られ、県内の前期末の土器群の検出が乏しいだけに重要遺跡の一つとして上げられてきた。その後、県文化課の分布調査によって 80 m × 1200 m (約 9600 m²) の範囲を有する遺跡であるものと推測されている。

2. 調査の経過 [第 41 図]

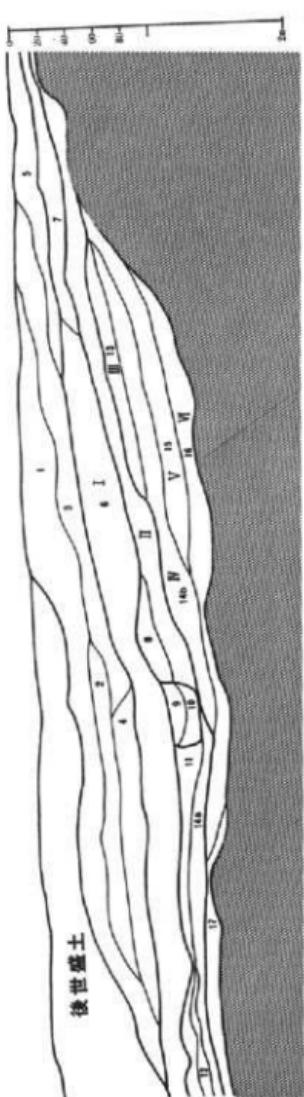
本遺跡の発掘調査は、No.17 遺跡発掘終了とともに開始され、昭和 51 年 5 月 10 日より 7 月 1 日までとし、その後調査期間等の都合からすでに No.26 遺跡から検出確認されている第 1 号、第 2 号住居跡を主体に調査することとして、ひとまず No.25 遺跡の調査を中止した。No.26 遺跡の住居跡プランがほぼ明確となった時点で、再び、8 月 18 日から 10 月 30 日まで、No.26 遺跡と併行しながら調査することとした。発掘の前に、雑木・雑草等の除去を実施し、直径 10 cm をこえる太さの樹木は公団立合いのもとで伐採を行なった。

調査範囲としては、遺跡の性格把握を前提とし、密度の高い中心部にそって進めることにした。グリッドは、遺物の濃密状況を考慮し、3 × 3 m のグリッド法を用いた。

遺跡の北方向を走る農道（旧競馬場コース）を基準線とし、南北 51 m、東西 18 m (約 918 m²) を設定した。

当初、グリッド設定部の全面発掘を目標として進めたが、予想以上の良好な遺物出土

と多量の湧水、樹木の抜根等も重なり、全体の2分の1、510 m²を調査するに至った。
〔第41図参照〕



第5図 八幡原No.25遺跡A～D区西壁セクション図

層番	土色	構造	参考	層番	土色	構造	参考
1	暗黒褐色			10	暗褐色微砂質土	溝状遺構埋土	
2	黒褐色粘質土			11	黒褐色泥炭層	(I 層) 多量の炭化物、木片を含む	
3	茶褐色微砂質土			12	暗褐色泥炭層		
4	暗茶褐色粘質土 (泥炭質)			13	茶褐色泥炭層	(II 層) 多量の炭化物を含む	
5	黒褐色微砂質土			14a	暗茶褐色泥炭層		
6	暗黒褐色泥炭層 (I 層)			14b	暗茶褐色泥炭層	(微少層) (IV 層) 多量の炭化物を含む	
7	暗褐色微砂質土			15	黒褐色微砂泥炭層	(V 層) 多量の炭化物を含む	
8	黒褐色泥炭層			16	暗灰褐色粘質土		
9	暗黒褐色微砂質土 (泥炭質) 溝状遺構埋土			17	暗灰褐色微砂質土		

3. 層位(第5図)

No.25遺跡の層位は、8-A～D区セクションで確認した結果より述べれば、層No.1～層No.16の6枚に分けられる。ただし、いわゆる遺物が包含する遺物包含層(文化層)は層No.6～層15層であり我々は一応遺物取り上げ上の都合で層No.6を第I層、層No.7を第II層上、層No.10を第II層、層No.13を第III層、層No.14a、14bを第IV層、層No.15を第V層とした。従って、本稿内の文中上の表現はこれにならってすべて第I層～第V層とする。

また層No.8は、後述する溝状遺構の構築の際の掘り上げ土と理解し、同じく、層No.9、10も溝状遺構内の堆積層でこれは、同遺構廃絶後に堆積した土層と判断した。このことは後で詳しく述べることとして、これから層の層序は、すべてNo.23、24、26遺跡からのびる傾斜線下に堆積する層群で、後世の盛土をのぞく地は、上記のNo.26遺跡より流れ込んだ土砂や、その途上で古代人が捨てた遺物であるものと考えられる。しかも、層と層の中間に検出されるラインも雨等による運搬作用の微砂が明瞭に残っていることから、層の区別が明確に判断された。さらに層No.6～15からは、多量の古代人の残した貴重な遺物が種々確認され、層位的に捉えることに成功したことは、遺物を研究する上で重要な手掛けになろう。

なお後世堆積層としたものは、旧競馬場を構築する際に運び込んだもので省略する。

4. 遺構(第7図～第11図)

No.25遺跡から確認された遺構としては、土壙25基、ピット18基、埋甕遺構2基、溝状集石遺構1、焼土遺構1、計48基の遺構が検出されている。

今回確認されたこれから遺構のはほとんどは、繩文中期の時期に求められるもので、しかも、斜変換線上に位置するなど、昨年度調査を実施したNo.24遺跡発見の土壙群と大変位置分布状況が類似するなど、興味深い点が認められた。^④なお、この点は後述することにして、以下簡単に各遺構について述べよう。

I 土 壙(第7図～第11図)

土壙は全部で25基確認されているが、この中で第2号～14号土壙群13基と、第15号～25号土壙群11基と、分布状態により大きく2つのグループに分けられる。ここでは、便宜上、前者の土壙群をA土壙群後者をB土壙群として扱いたい。

A土壙群(第7図)

第2号土壙から8号土壙にそってほぼ直線状に北方向にのび、10号、9号土壙をもつ

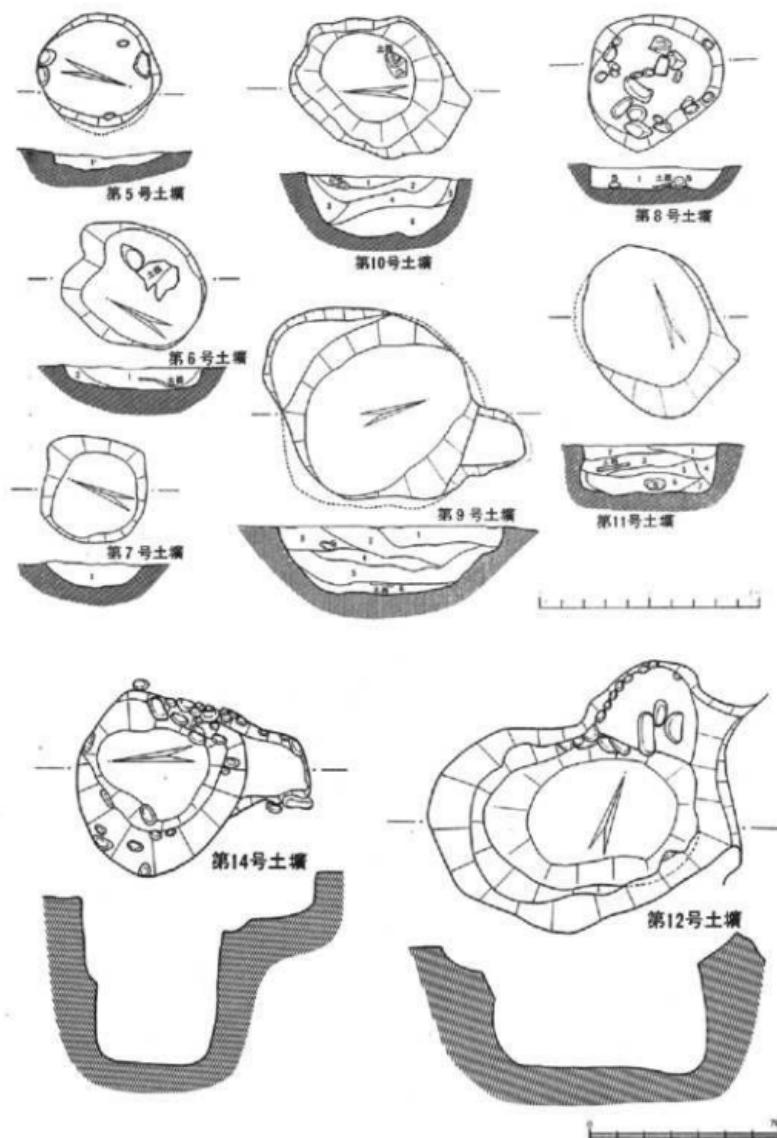


第6図 八幡原No.25遺跡遺構配図

て、11号、12号、14号土壙と東方向に曲する。東は大きな立木でおおわれて調査が不可能であるため実施できなかったが³、No.24遺跡の様に第1号土壙からさらに南方に進んで橢円形状に配置する可能性もありなお検討を要する。検出された土壙群は、不整の円形状プランを示すものがほとんどで、土壙内形状も袋状を示すもの（その可能性を有するものを含む）、第5号土壙、第10号土壙、第11号土壙、第9号土壙、第12号土壙、第14号土壙の6基、袋状を示さないもの（いわゆる皿状）、第2号土壙、第3号土壙、第4号土壙、第6号～8号土壙、第13号土壙の7基で、袋状は深さが25～40cm位で、皿状を示すものは10～15cmと一般に浅い。又、埋土はほとんどが自然堆積層に分けられるのが主であり、人工的堆積を有するものとしては、第1号土壙（前期末）にとどまる。第6表土壙内埋土一覧表参照

B 土壙群

11基礎認されている。第15、23号土壙を基準として、21号土壙、20号土壙、19号土壙と直線状に分布し、さらに前に並ぶように22号土壙、16号土壙、18号土壙と位置する。また土壙の形状は基本的にA土壙群と同様な不整円形状を示すものが主で、他に18号土壙、17号土壙の様に橢円形状を呈するものもある。底面の形状は不



第7図 八幡原No.25遺跡土壤実測図

整面状でデコボコしており、深さもA土壤群に比べ、10～20cmと浅い。

堆土状況は、3～4枚に分けられるものが多く、すべて自然堆積を示すものとみられる。第7表を参照。

第6表 土壌埋土一覧表

層No	土 色	備 考
1	暗褐色黒土層	

第5号土壤

層No	土 色	備 考
1	暗黒褐色土層	
2	黄褐色砂質土層	
3	黒褐色微砂質土層	

第6号土壤

層No	土 色	備 考
1	暗褐色黒土層	

第7号土壤

層No	土 色	備 考
1	暗黒褐色黒土層	

第8号土壤

層No	土 色	備 考
1	暗茶褐色黒土層	しまり有
2	茶褐色微砂質土層	黒っぽい
3	褐色微砂質土層	
4	黄褐色微砂質土層	カクラン
5	茶褐色微砂質土層	焼土を含む
6	暗黒褐色黒土層	土器を含む

層No	土 色	備 考
1	茶褐色微砂質土層	
2	茶褐色微砂質土層	焼土を多量に含む
3	褐色微砂質黒土層	カクラン
4	黒褐色微砂質土層	茶っぽい土器を含む
5	褐色微砂質土層	
6	黄褐色砂質土層	カクラン

第9号土壤

第1～6層まで炭化物を含む

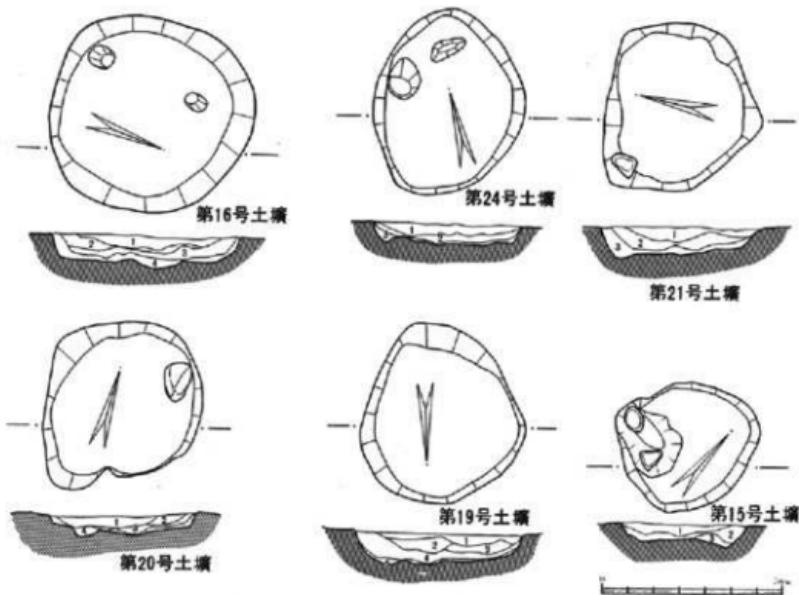
層No	土 色	備 考
1	黒褐色砂質土層	
2	茶褐色微砂質土層	
3	褐色砂質土層	土器を含む
4	黄褐色砂質土層	
5	茶褐色微砂質土層	
6	茶褐色微砂質黒土層	
7	茶褐色微砂質土層	

第10号土壤

第2～6層炭化物まじり

第11号土壤

第3層を除き炭化物まじり



第8図 八幡原No.25遺跡土壌実測図

第7表 土壌埋土一覧表

層No	土色	備考
1	暗茶褐色微砂黒土層	炭化物
2	黄褐色微砂質土層	
3	褐色微砂質土層	カクラン層

第15号土壤

層No	土色	備考
1	暗黒褐色土層	
2	暗茶褐色黒土層	
3	"	炭化物含む
4	黄褐色砂質	カクラン

第16号土壤

層No	土色	備考
1	茶褐色微砂粘質黒土層	
2	"	
3	"	第4層質分も含む
4	褐色微砂質黒土層	
5	黄褐色砂質土層	

第19号土壤

層No	土色	備考
1	カクラン層	
2	暗茶褐色黒土層	シマリあり
3	褐色微砂質黒土層	
4	褐色微砂質土層	

第20号土壤

層No	土 色	備 考
1	暗黒褐色黒土層	粘りを含む
2	褐色微砂質土層	"
3	"	

層No	土 色	備 考
1	暗茶褐色黒土層	粘りを含む
2	黄褐色微砂質黒土層	"

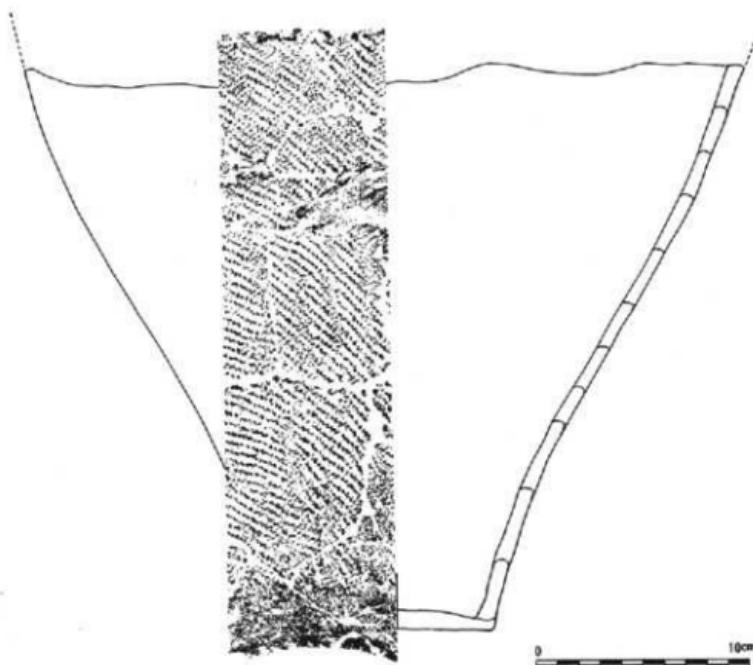
第 24 号土壤

第 21 号土壤

II ピット

ピットとしては、A 土壌群の中央部に点在する 18 基が検出されている。大きさは、20 ~ 25 cm の円形状を有するものが多い。深さは、平均 25 ~ 40 cm で、ピットを二つ並べたような、ダルマ状を示すものも 3 基確認された。この様なピット群は、八幡原 No. 24 遺跡第 38 号土壤にも見られ注目できる。^⑥ただし確実にこれから土壌群に付随するかは難しい。ここでは上記の土壌群とは密接な関連を呈する施設の一部としておく。

III 埋甕遺構〔第 6 図、第 37 図版、第 52 図版〕



第 9 図 八幡原 No. 25 遺跡第 2 号埋甕拓影図

No 25 遺跡からは2基検出されている。いずれも土壙群(A, B)よりも少し西側に離れた位置に存在するのが特徴で、両者とも、深鉢形および壺形の器体を上半分を切って(あるいは意図的に壊わして)、器の下半分を埋めてある。このような状況は後述のNo 26 遺跡から4基検出されている埋甕遺構に見られない特徴であり、しかも、位置的に土壙群に密接するように設施するなど興味深いものである。

1号埋甕〔第37図版-2, 第52図版-1〕

B 土壙群付近に位置するもので、第19号土壙より西側3m位離れた所にある。土器は磨消繩文手法を用いたC字状文で構成され、横位に転回する傾向をもつ、28cm位の深鉢形土器の上半分を壊わして利用し、そのまま埋めてある。掘り方はほとんど見られず土器を設置する部分だけを掘り凹めたと推測できる。

2号埋甕〔第9図、第37図版-1, 第52図版-2〕

A 土壙群の第10号土壙から約2m西に離れた所に位置するもので、粗製の深鉢形土器上半分を切って埋設してある。掘り方も第1号埋甕と同様に器を設置するだけ掘り込んだもので、掘り方はほとんど確認できなかった。埋設された土器の特徴であるが、L-R 単節縦繩文を基本として、縦位に転回する粗製深鉢形土器である。

IV 焼土遺構〔第6図〕

1号埋甕の南西4.5m、溝状遺構の真上に位置するもので、100×100cmの焼土の分布が認められた。次にここからは多量の炭化粒以外、年代を決定する土器その他の遺物は検出されなかった。またこの遺構は後述する溝状遺構とも関連を有するものとみられるので、詳しくは溝状遺構の中でふれたい。

V 溝状遺構〔第6図、第7図版-2, 第12図版、第13図版〕

C-1～13区にかけて検出された溝状の遺構で層No 11を切って(実際的には掘り下げる)構築している。(第5図参照)

遺構は、1～5区の上面で、40～45cm、深さ20～30cmを割り、6～8区上面で、50～60cm、深さ30～40cm、9～12区で60～80cm、深さ40～45cmと北下するにしたがって溝幅を大にし、深さも同様に北下するにしたがって深くなる。

また3項の「層位」でも述べたように、いわゆるNo 8は、溝の北方直上にうず高く堆積し、しかも層の成分も層No 11と同じ暗褐色泥炭層であることからして、明らかに層No 11(III層)を掘り下げた土砂を田の畔上にはね上げたものと推測される。

また同溝内に残るNo 9, No 10等は、微砂質土を主とする土質であることから当溝が廃絶(機能を失ってから)後に上方から流れ込んだ土砂が堆積したものと理解されよう。

◎ 遺構の機能について

さて本遺構がどのような機能を有し、利用されたかについて若干の説明を加えてみよう。まず第1に、本遺跡が中期社会においてどの様な位置的利用にあったかが最大の問題となる。3の「層位」でも述べたように、本遺跡は、No.26遺跡方向からのびる微高地が急に傾斜する位置にあたり、この傾斜変換線の延長が、先のNo.26, 24, 23, 16各遺跡と続き、特にNo.23, 24, 16遺跡付近には扇状地特有の被圧地下水となって湧き出す清水が多く存在する。

のことから、我々の脳裡の中において、当地の飲用水を、当地まで引くために掘られた古代水路跡の可能性を強くするものと考えた。さらにこの推測を立証するために、小トレンチを、前方100m、後方200mに各1本入れて確認した結果、同溝状遺構の延長と思われる落ち込みを見ることができた。

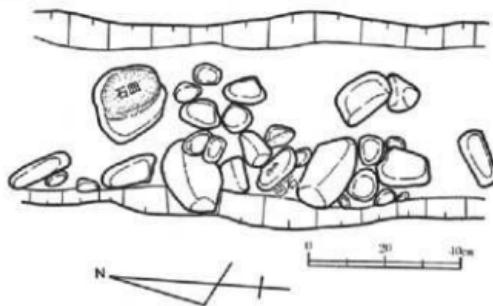
ただ、これだけの結果で古代水路跡と推測するのは大きな問題があるが、しかし、この溝状遺構が明らかに、かれら古代人の手によって工事されたことはほぼ確実で、本例のような調文中期における土木工事の跡は他に類をみなく、大変重要な点といえよう。それだけに十分な調査も行なわれずに終了に至ったことは、非常に残念でならない。調査を実施した一人として心から懇意とする次第である。これ以上の考察は今後の全面発掘調査に待ちたい。

VII 溝状内集石遺構(第6図、第10図、第13図版-2)

図版、第10図版)

C-13区の溝状遺構内より発見されたものである。8~30cm位までの河原石を用いて集石してあるもので、特に規則的に配置したようなものではない。また集石内からは、石皿1点と凹石1点も検出された。

ところでこの集石遺構であるが、溝状遺構が急に広がり、かつ最も深い所にある。また直上部には前述の焼土遺構もあり本集石遺構、溝状遺構、焼土遺構とともに何らかの関連性を呈するものと指されよう。すなわち、



第10図 八幡原No.25遺跡溝状内集石遺構実測図

この集石は、いわゆる「流し」の要素を有するもので、集石で水をせき止め、物を洗いその他飲用水等の施設で、上方の焼土遺構は屋外調理施設と考えてはどうであろうか。

6. 遺構の年代

すでに述べているように、遺構としてはA土壙群、B土壙群、それに第1号土壙を含む35基と溝状遺構、同集石遺構、そして焼土遺構各1基、埋甕遺構2基とピット群である。

この中で埋甕遺構、第1号土壙は、埋甕ならびに土壙群、ピット群、溝状遺構、集石遺構、焼土遺構に関しては明瞭な資料を得てないので、不明と言わざるをえない。

〔土壙〕

土壙内からは年代を決定する資料として、土器片380点を検出している。いずれも縄文中期後葉期に属するもので、磨消繩文手法を用いた横位のC字状文、S字状文、それに縦位の円文、懸垂文も見られる。このことをA、B両土壙群にあてはめると、A土壙群は後者の円文、懸垂文を主とする土器群が主体的に見られるB土壙群に関しては前者のC字状文、S字状文を圧倒的に併出することが判った。これを編年的に位置づけると、C字状文、S字状文は大木10式、円文、懸垂文は大木9式に求められる。

したがって、両者の土壙群は、A土壙群が大木9式併行、B土壙群が大木10式併行に位置づけられよう。ただし、両者の土壙群とも基本的にすべて自然堆積状況を呈することからして、今後吟味する必要がある。

〔一号土壙〕

一号土壙からは縄文前期末に位置づけられる復元可能土器が2個体分埋納してあった。この二つの復元可能土器は後述する第三層（包含層）出土の土器群の仲間に属することから前期末の大木6式の仲間でも非範的新しいグループに属するものとみられる。

〔ピット群〕

ピットはA、B土壙群と同じ地山層より掘り込んで構築していることから、A土壙群と同じ時期に位置するものと考えられるが、明確にできない。

〔溝状遺構、溝状集石遺構、焼土遺構〕

溝状遺構は、層No.11（II層）を切っており、少なくとも層No.11に含まれている土器群よりも新しい時期に構築したものにみられる。すなわち、層No.11に含まれている土器群は、大木9式（b）と大木10式でも比較的古手の大木10式であることから大木10式の中でも非範的新しい時期（大木10a）に構築したものと考えられる。

(埋甕遺構)

- 1号埋甕-C字状文からみて大木10(a)式に併行するものと思われる。
- 2号埋甕-年代決定の吟味は粗製土器であるため難しいが、A土壤群に密接な関連を示すと考えて9(b)としておく。

7. 遺 物

本遺跡から出土した遺物は整理箱にして150箱を数える。その中で大半を占めるのが土器であり完形土器(復元可能土器を含む)150個を含む整理箱で120個が出土されている。次に石器で3715点(整理箱30個), クルミ496点, 漆器2点, 木片10点等がある。

これらの遺物は出土状況より次のグループに分けることができる。

第1は、遺構内出土の遺物で、土壙、溝状遺構などから検出されている。

第2は、埋甕遺構発見の二個の埋甕である。

第3は、2~13、A~D区出土の包含層出土土器で、層No.11~15(I~V層)内出土の土器群で、今回発見されたほとんどの遺物がこのグループである。

今回は特に遺物量が最も多く検出された第3のグループを中心にして土器、石器その他について簡単に述べたい。

I 土 器

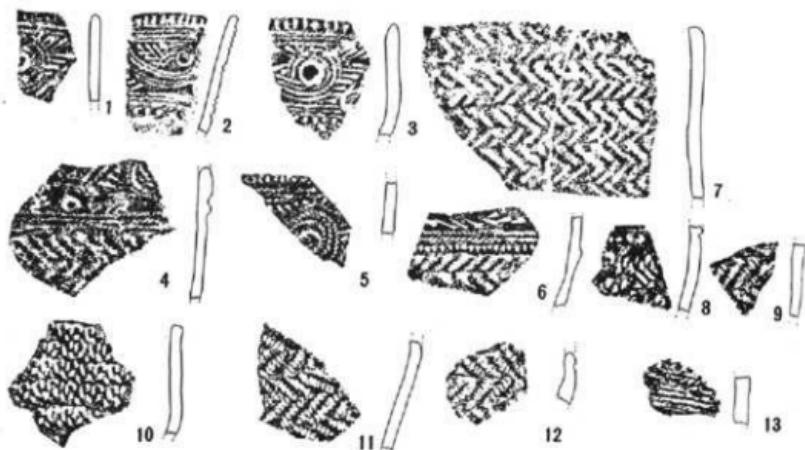
土器は出土状況も吟味して次の5群に分けた。

1. A群土器 繩文前期初頭に位置するもの
2. B群土器 繩文前期末に位置するものでV層出土のものとした。以下同じ。
3. C群土器 IV層出土土器前期末
4. D群土器 III層出土土器前期末
5. E群土器 繩文中期後葉に属するもので、I, II層より出土したものである。^⑧

以下簡単に各土器群について説明を加える。

A群土器〔第11図1~13 第8表〕

本遺跡から出土された土器群の中では最も遺物が少ないグループである。土器のはほとんどが破片であり、第3層、第4層に混入されていたものである。文様は藤状撚糸压痕文を施すもの1~6、結節羽状繩文を呈するもの8、羽状繩文を施すもの7、9、11、12、ループ文を施すもの10、撚糸文を施すもの13があり、繩文前期初頭の上川名II層(花積下層式)に併行するものと思われる。



第11図 八幡原No.25遺跡出土土器拓影図(1)

B群土器〔第12図、14～45 第13図46～47 第14図 第15図-3 第20図-1
・第45図版1 第46図版1 第8表〕

No.25遺跡V層より出土した土器で、C、D-6～9区にかけて集中的に検出された。復元可能土器としては、第45図版1、第46図版の他に15個ある。文様としては竹管を基本とした爪形文による山形文、沈線による刻み等が多く見られる。

C群土器〔第15図-2 第16図75～107 第17図108～137 第18図 第19図1a1b
第20図-1・2 第21図 第22図 第23図 第24図 第32図-1・2 第45図
版2 第46図版2 第47図版1・2 第48図版1 第8表〕

D群に次いで多く出土した土器群で、第4層を中心にC～D-5～8区に集中していた。〔第二十二図版1 第二十三図版1・2～第二十七図版1・2参照〕

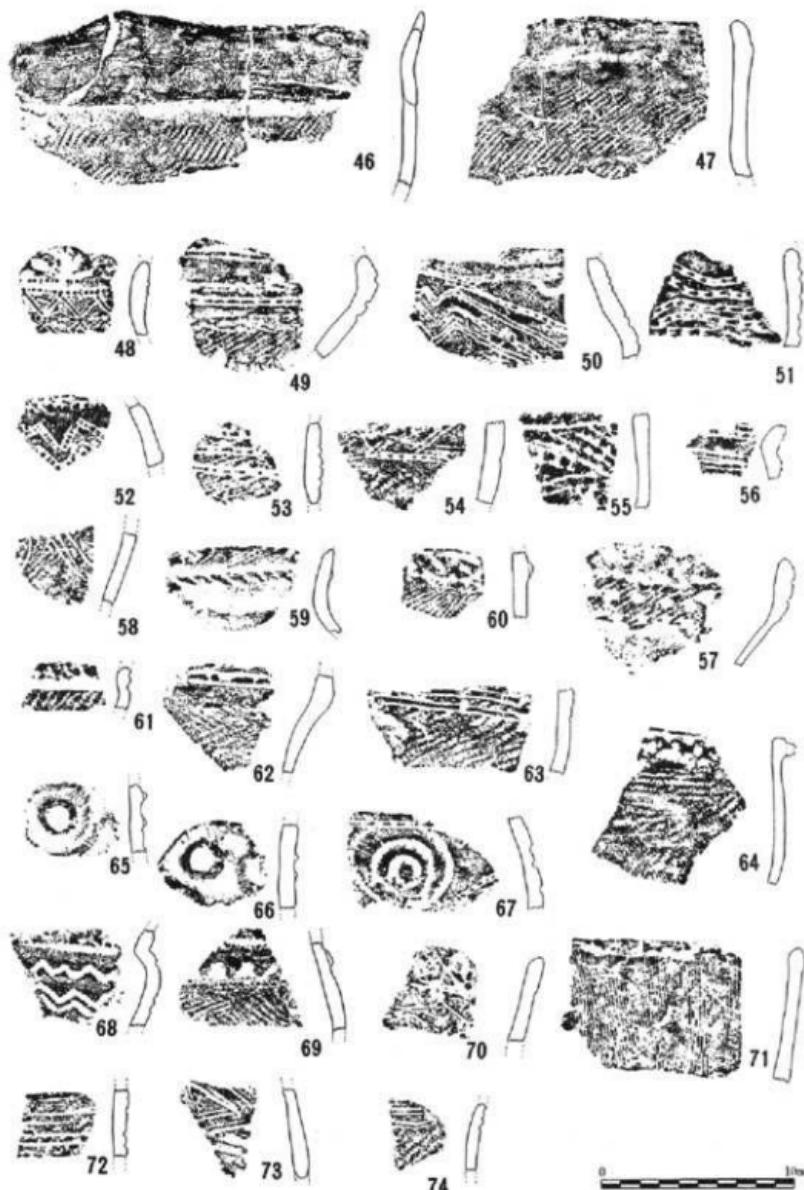
現在復元されたものとして6個、今後復元を必要とするもの約40個分存在する。文様として竹管による平行沈線、同山形文、爪形それに沈線による平行、渦巻、刻みさらに粘土貼り付文、燃糸文等がある。

D群土器〔第15図-1 第20図-5 第25図138～177 第26図178～213 第27図
214～245 第28図246～280 第29図 第30図-1～3 第31図 第32図-3・
4 第48図版2 第49図版1・2 第50図版1・2 第51図版1・2 第8表〕

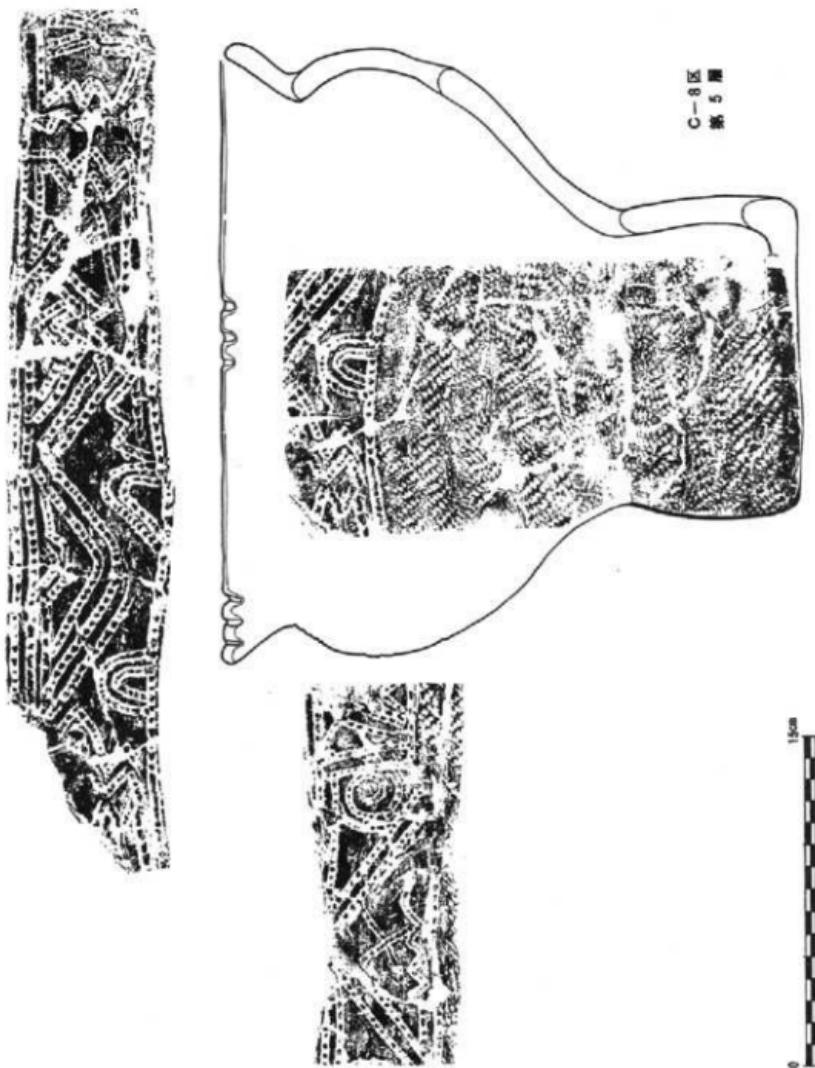
今回出土した中で最も多く検出された土器群でB～D-1～8区に多く集中した。



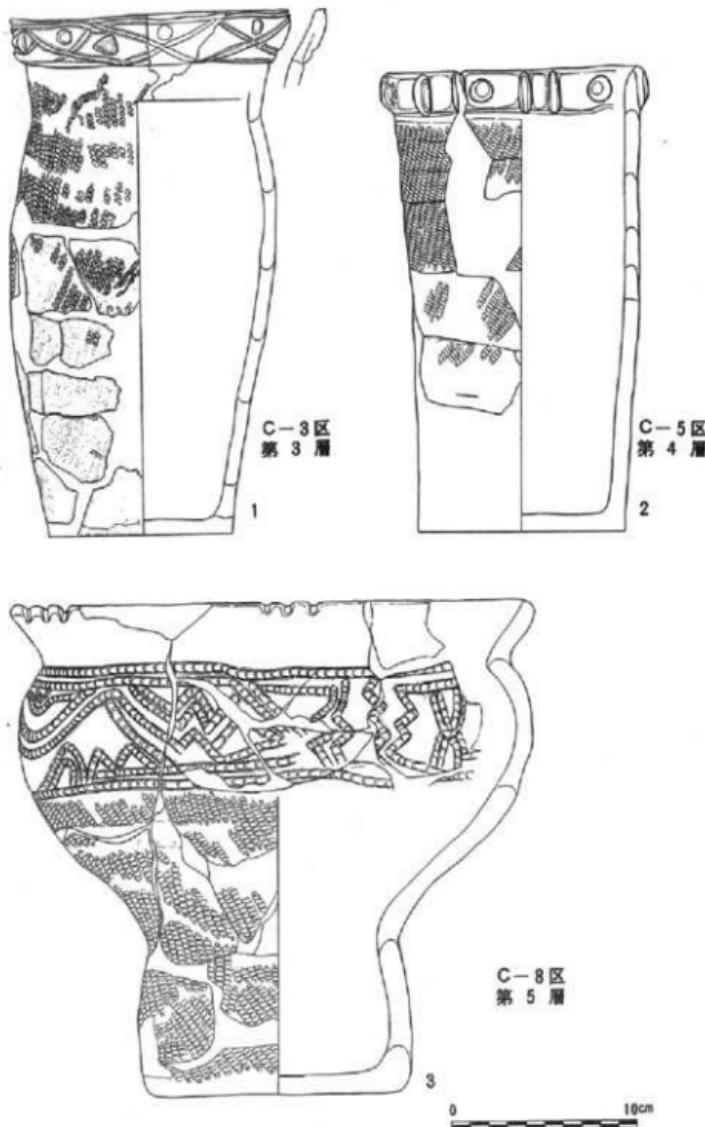
第12図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(2)



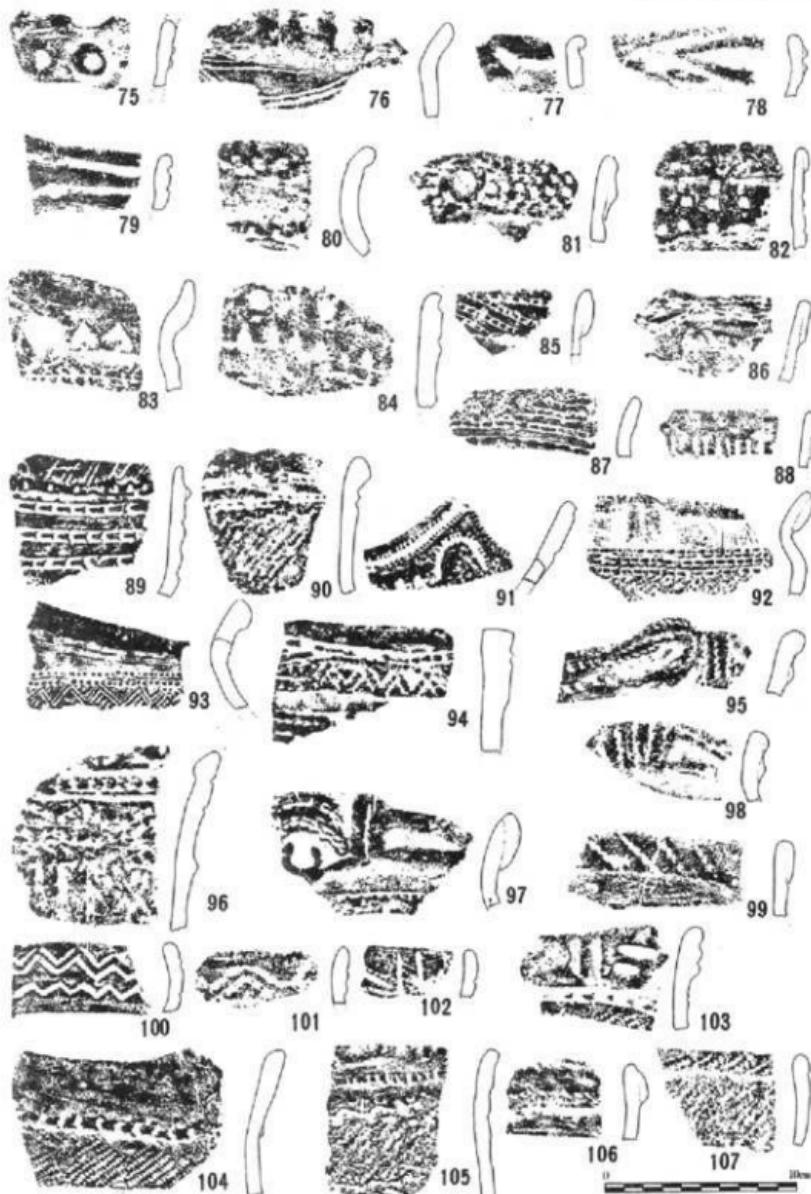
第13図 八幡原No.25遺跡出土土器拓影図(3)



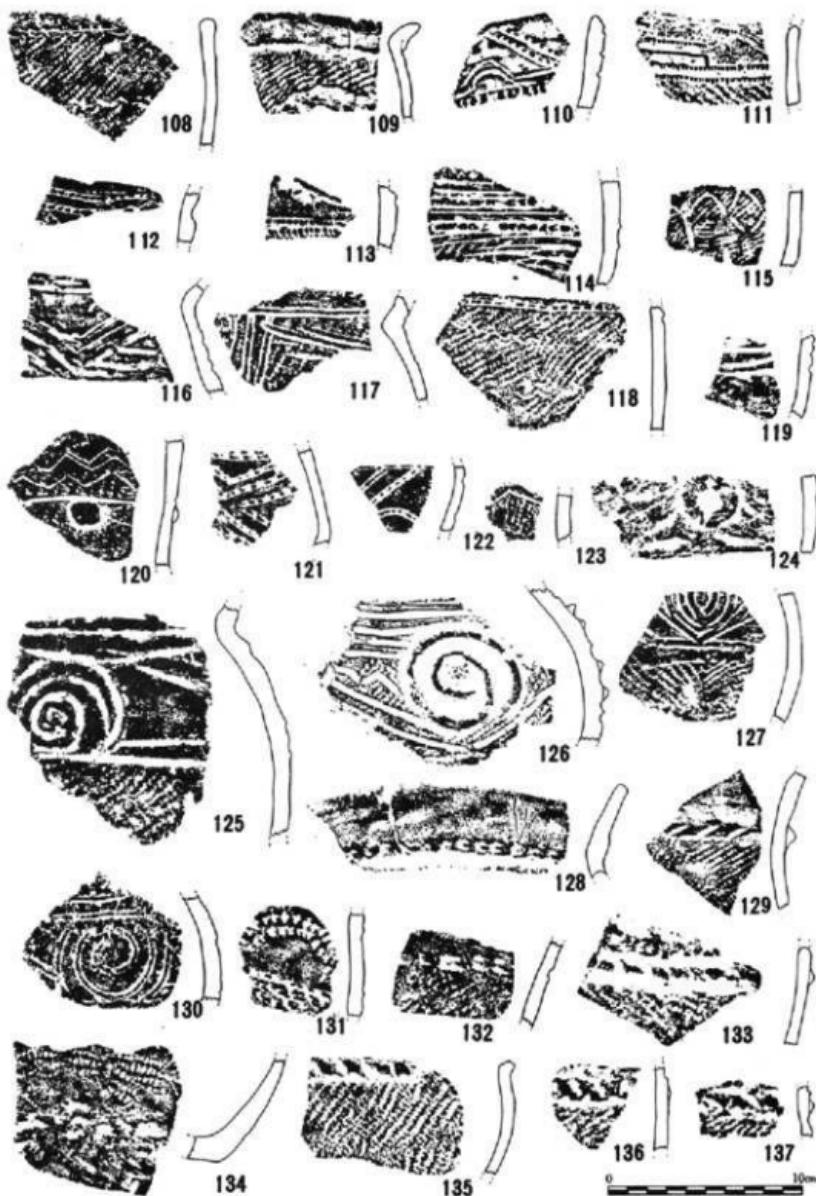
第14図 八幡原No.25遺跡出土土器実測図



第15図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図



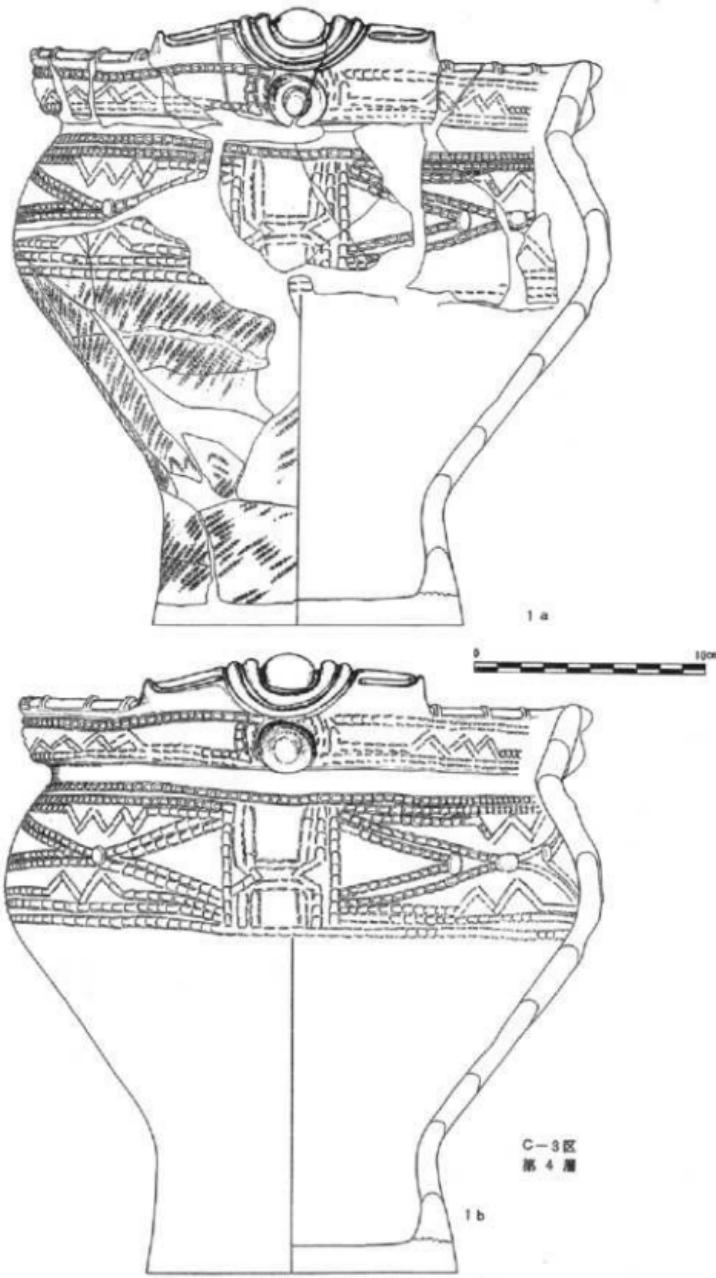
第16図 八幡原Na 25 遺跡出土土器拓影図(4)



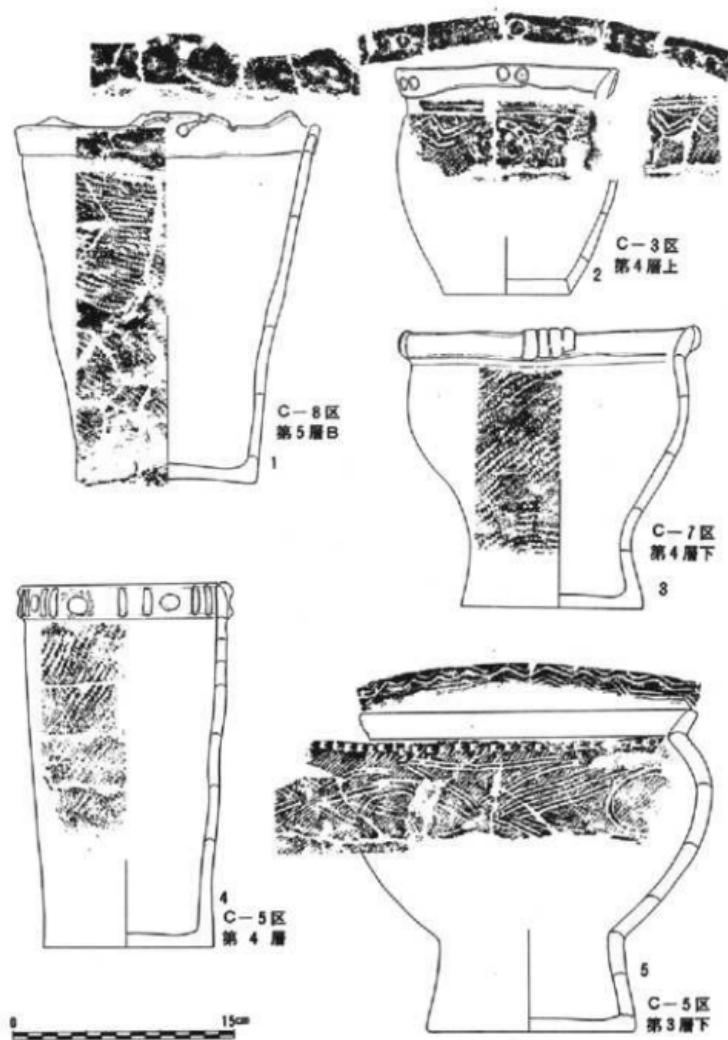
第17圖 八幡原No. 25 遺跡出土土器拓影図



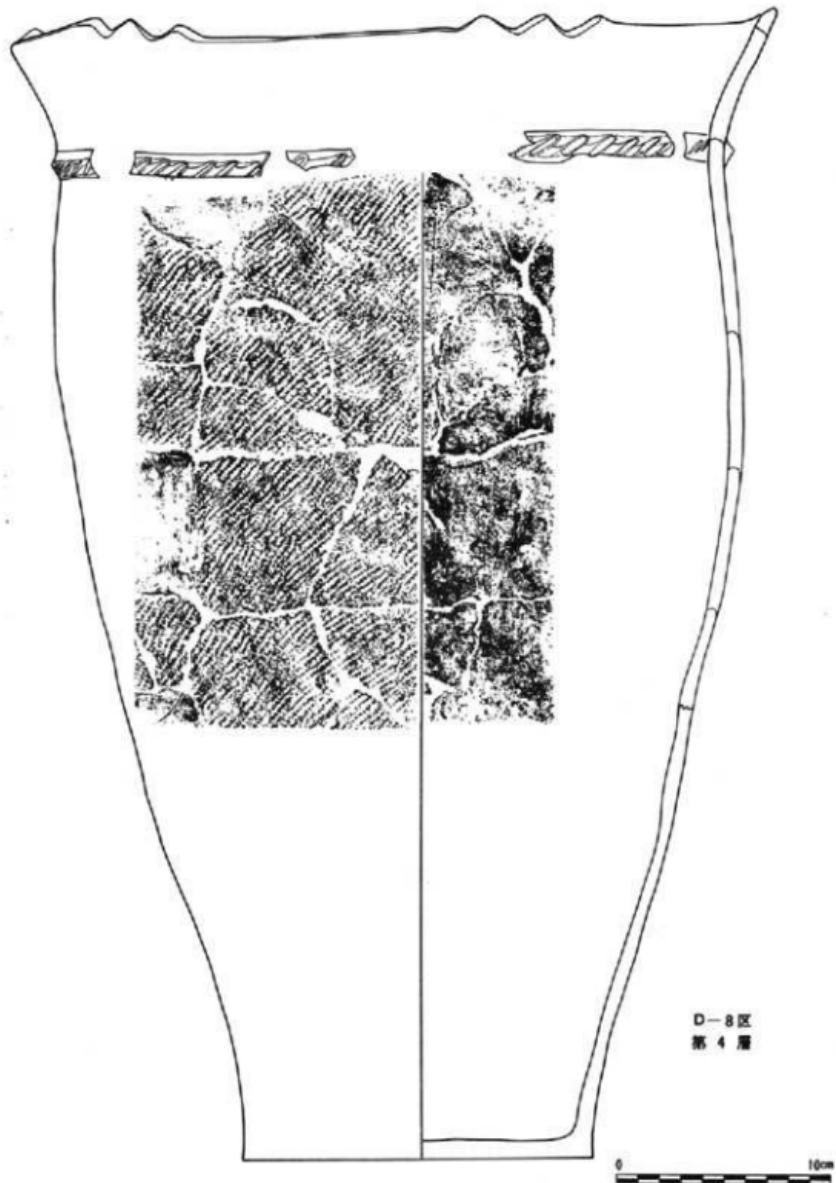
第18図 八幡原No.25遺跡出土土器実測図



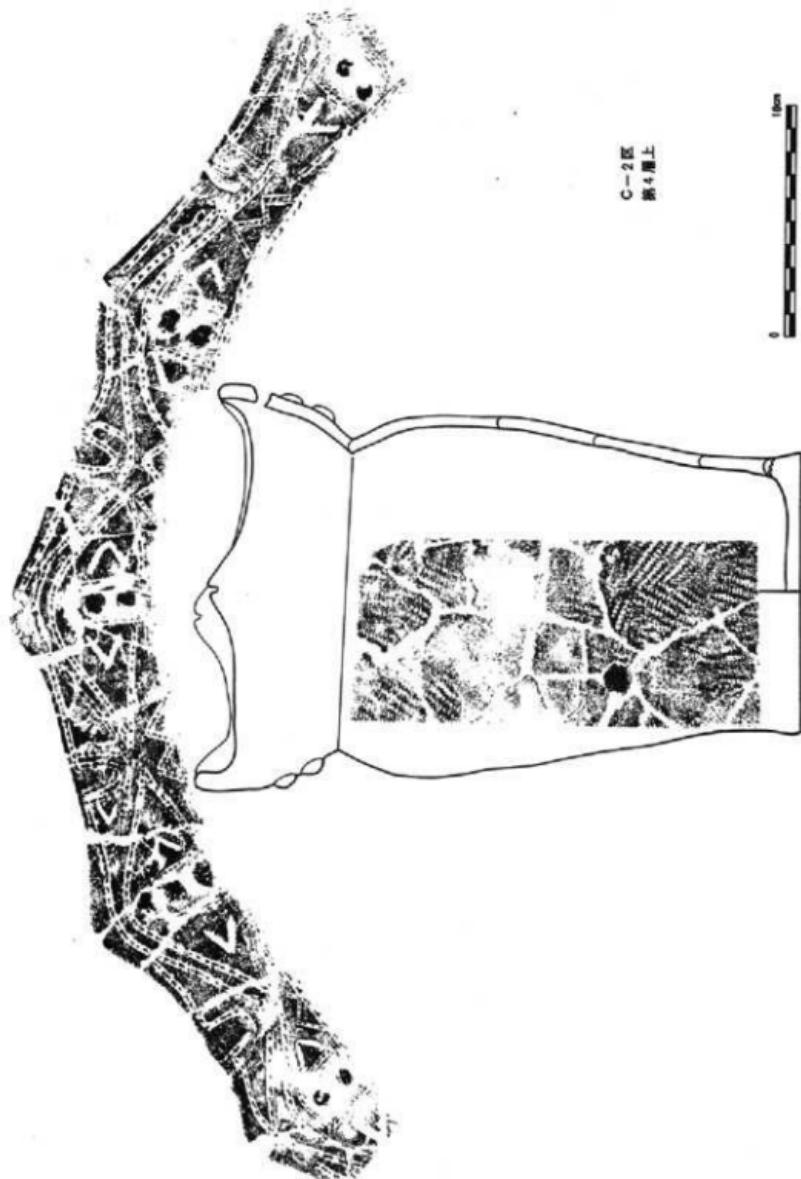
第19図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図



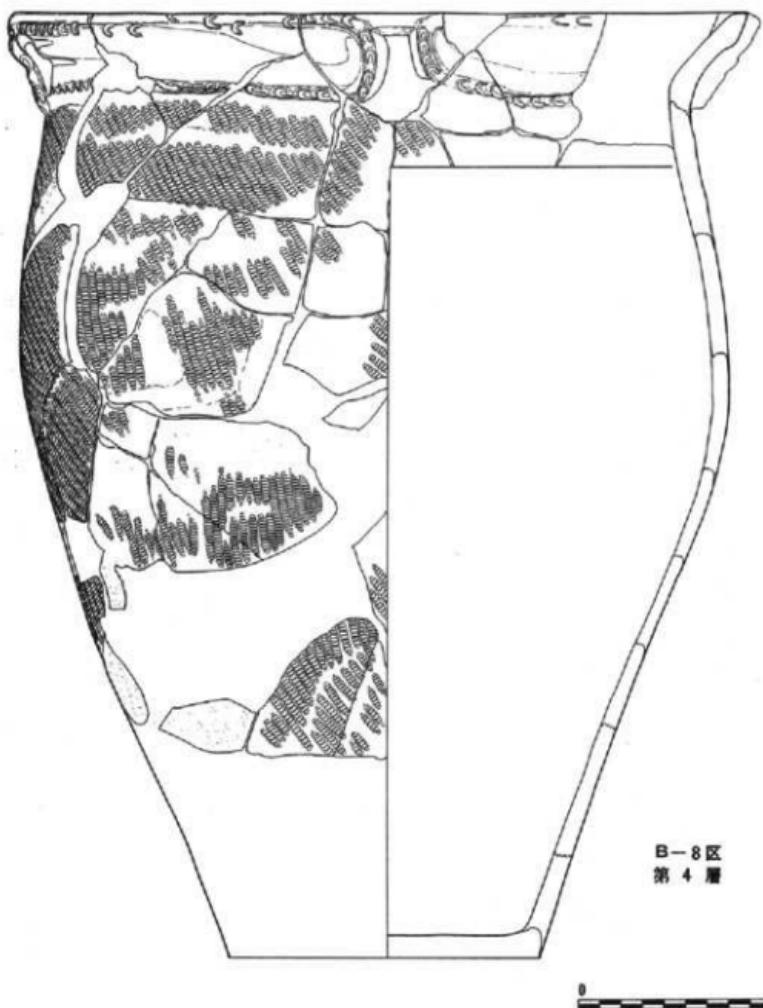
第20図 八幡原No. 25 遺跡出土土器実測図



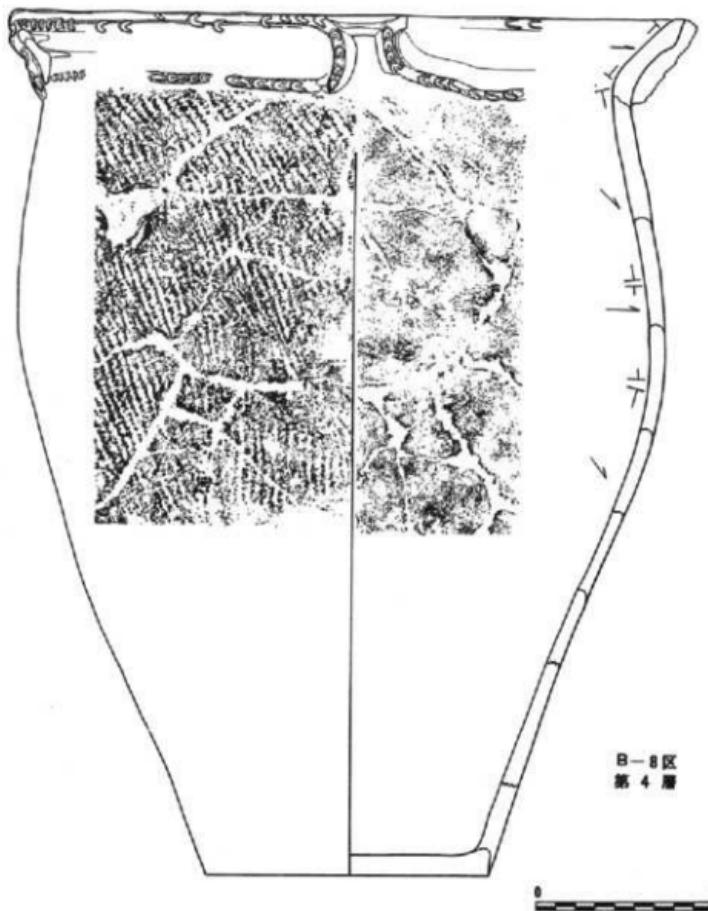
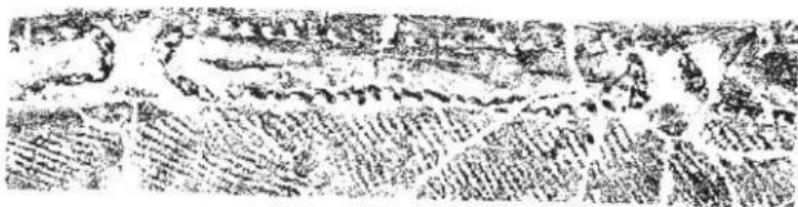
第21図 八幡原No.25遺跡出土土器実測図



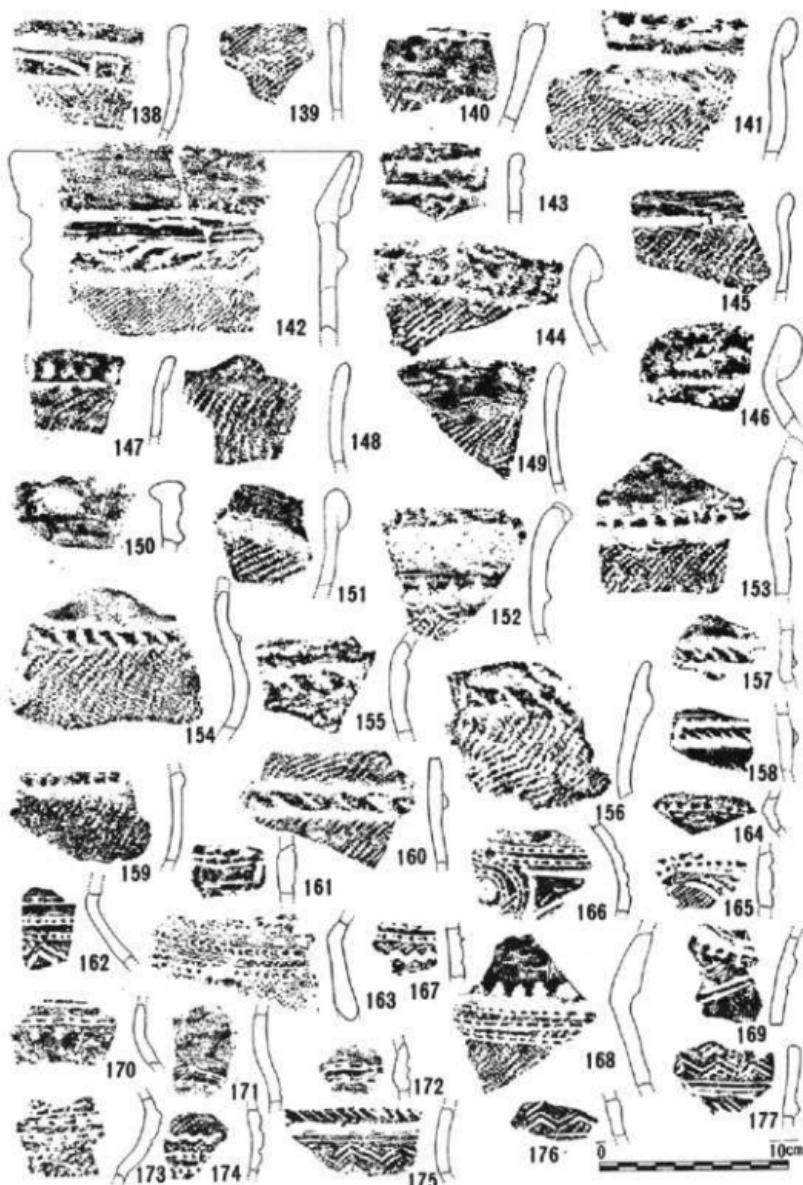
第22図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図



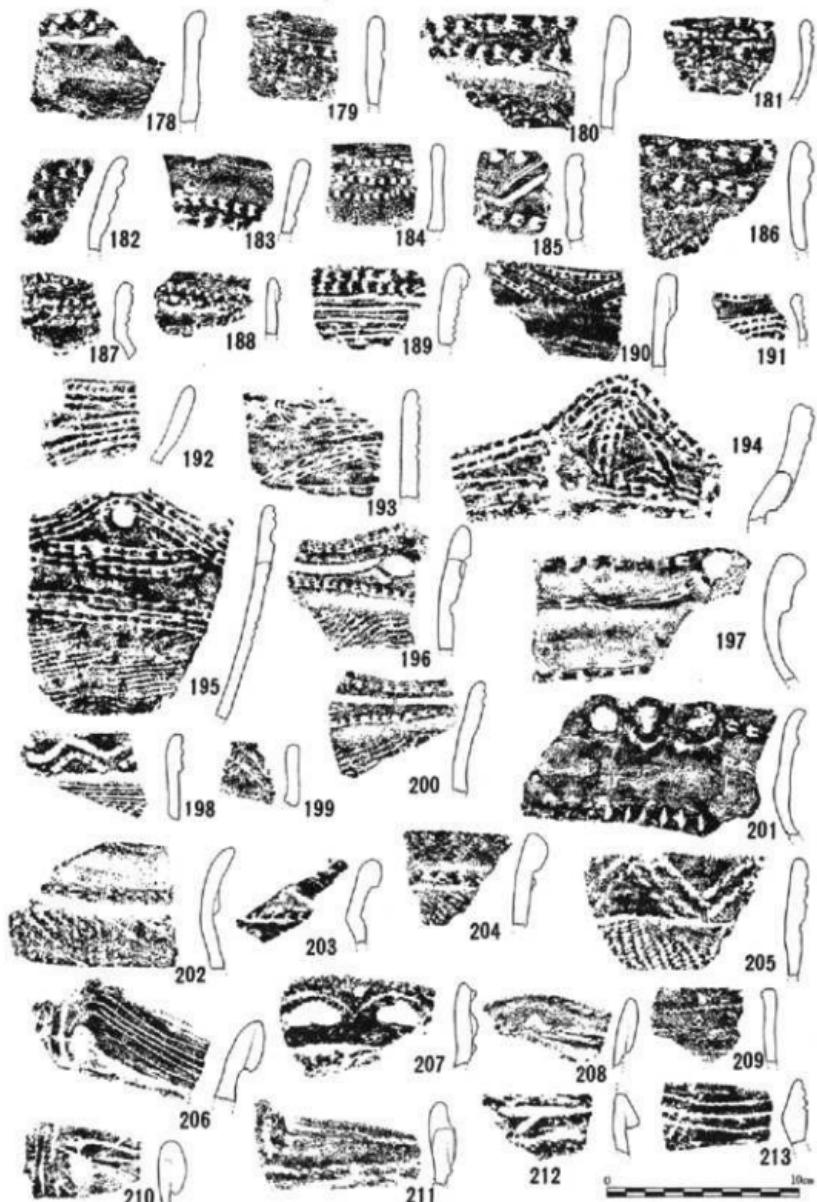
第23図 八幡原No.25遺跡出土土器実測図



第24図 八幡原No 25 遺跡出土土器実測図



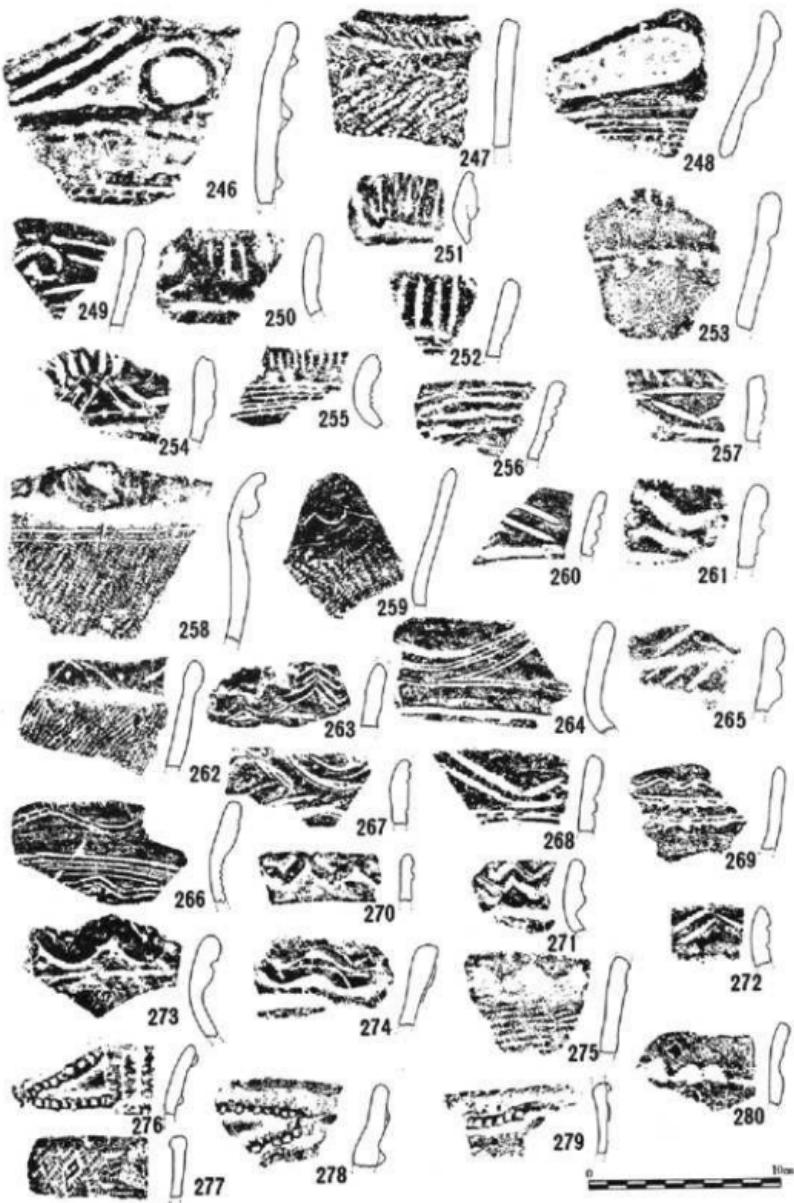
第25図 八幡原No.25遺跡出土土器拓影図(6)



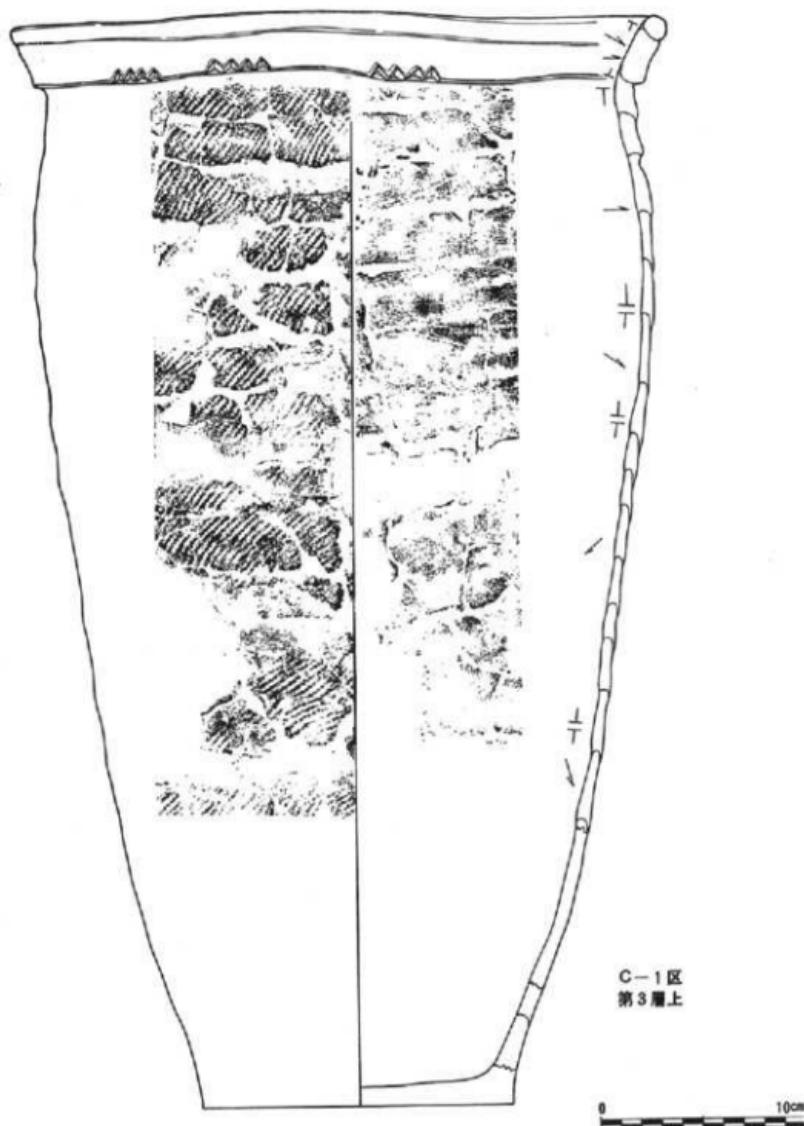
第26図 八幡原№25遺跡出土土器拓影図(7)



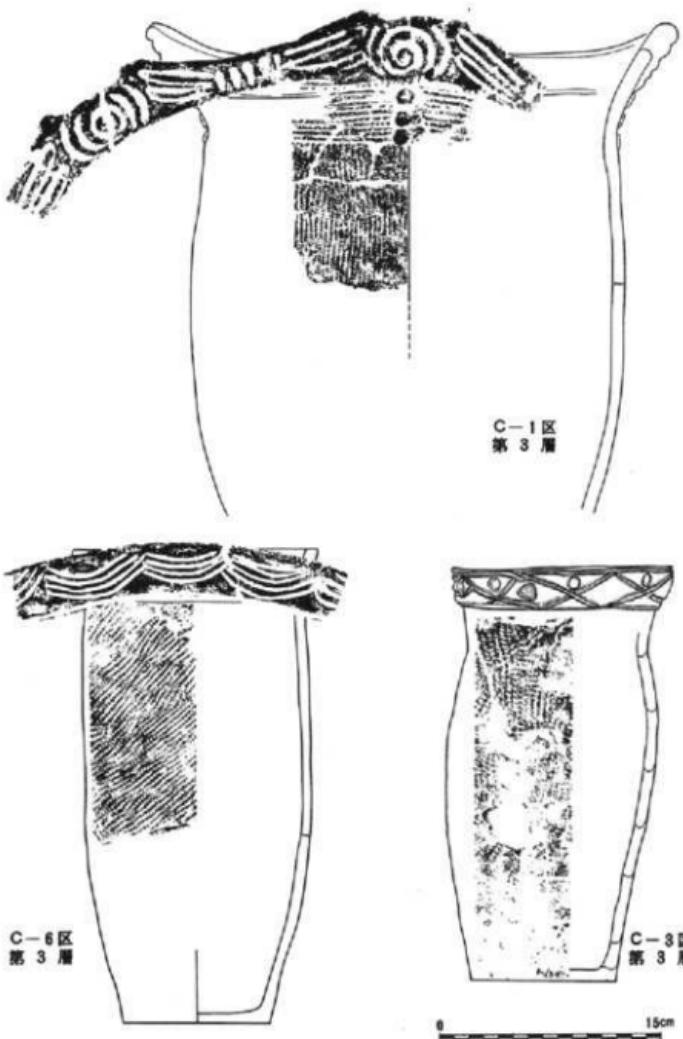
第27图 八幡原No.25遺跡出土土器拓影圖(8)



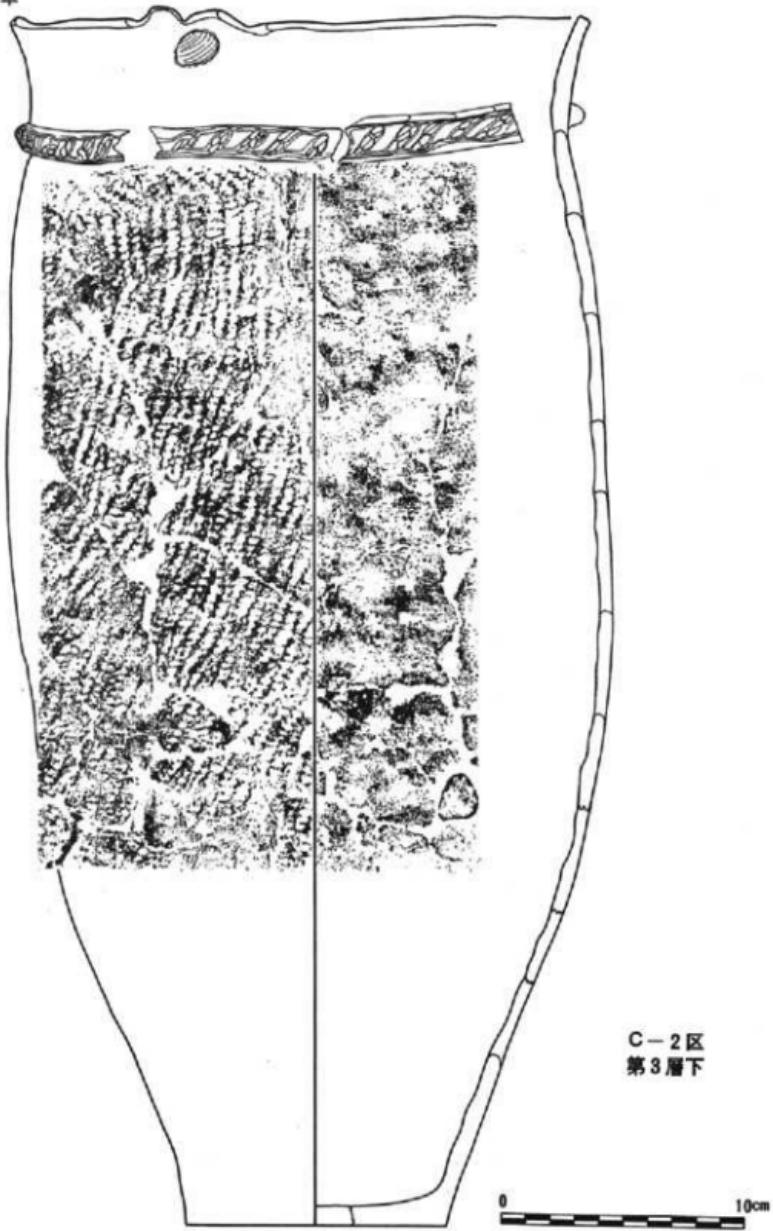
第28図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(9)



第29図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図



第30図 八幡原No.25遺跡出土土器実測図



第31図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図



第32図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図

〔第二十二図版2 第二十八図版1・2～第三十六図版1・2参照〕

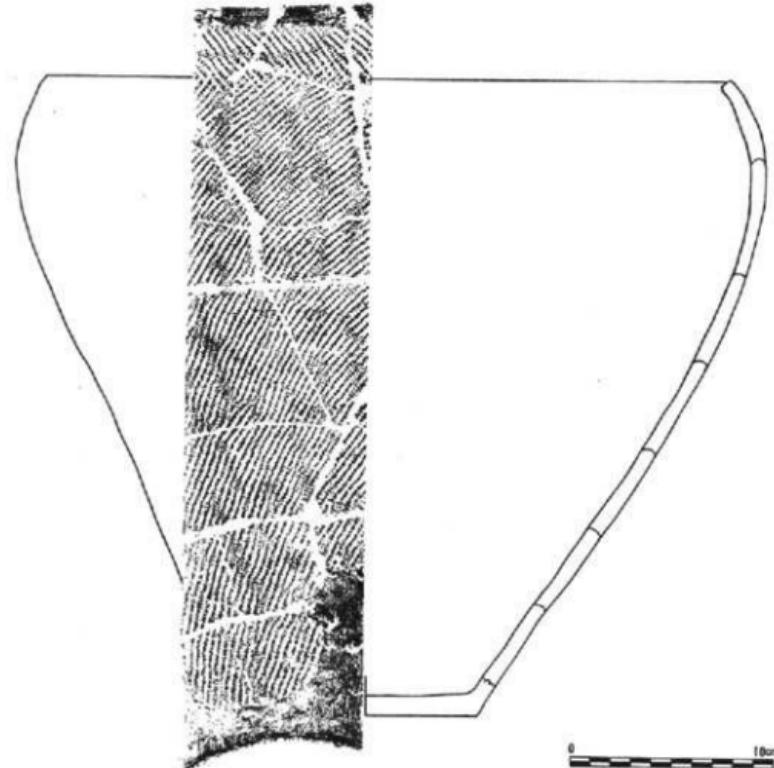
この群の土器は現在10個復元されているが、この他に復元を要する資料として5個ある。文様は沈線による渦巻文、山形文、平行文それに棒状の突刺文、刻み、竹管による爪形文もみられる。

E群土器〔第9図 第33図 第34図 282～318 第35図 319～353 第36図 354～366 第52図版 第53図版1・2 第54図版1・2 第55図版1・2 第56図版1・2 第8表〕

中期後葉のI・II層出土土器群で、B～D-3～7区を中心にほぼ全域に検出された。

〔第三十七図版1・2～第四十図版1・2 第四十一図版1 参照〕

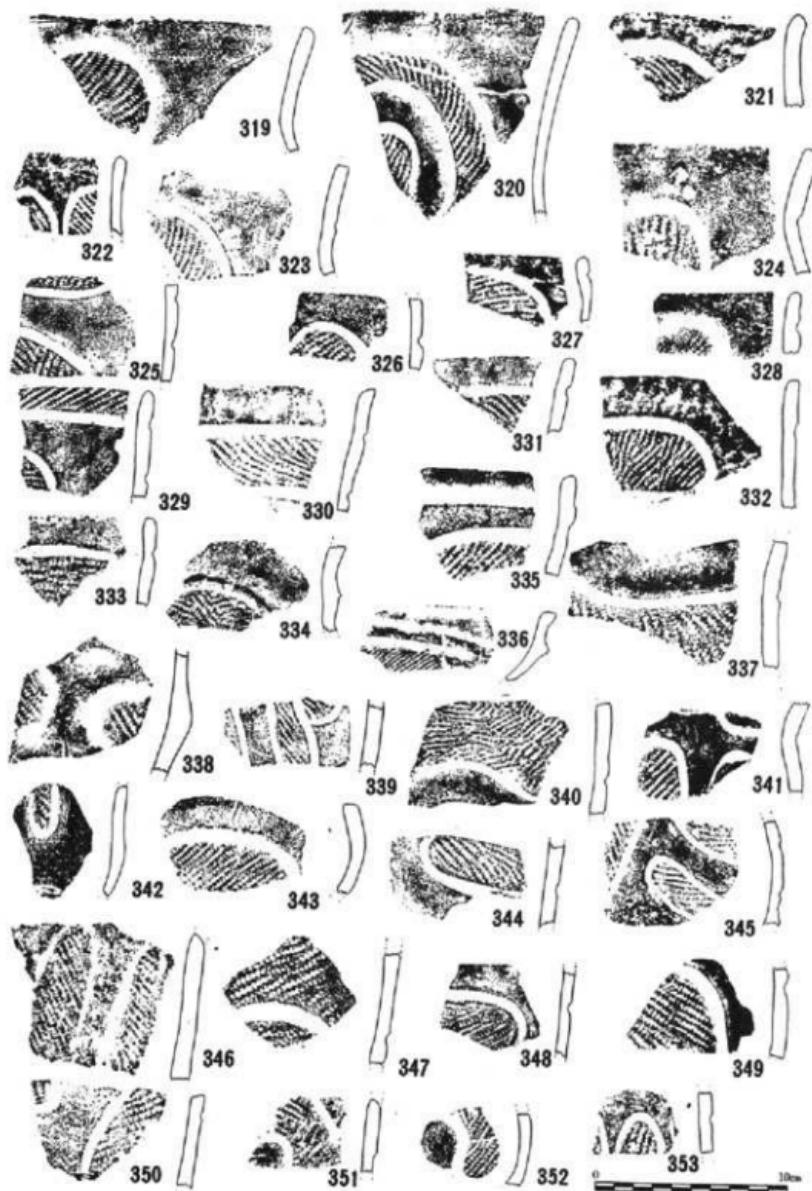
この中で復元可能土器50個存在し、第1号埋甕、第2号埋甕他6個が復元されている。



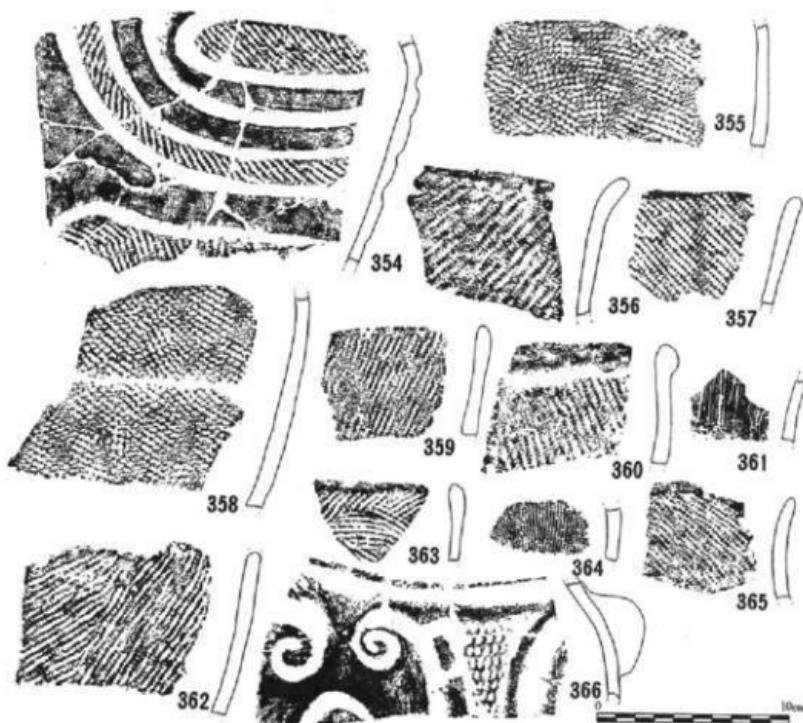
第33図 八幡原No.25 遺跡出土土器実測図（D-6区 第2層下）



第34図 八幡原No.25 遺跡出土土器拓影図(10)



第 35 図 八幡原 No. 25 遺跡出土土器拓影図 (11)



第36図 八幡原No.25遺跡出土土器拓影図(12)

文様としては、磨消縦文手法を基本とした円文、懸垂文、C字状文、S字状文、渦巻文等で構成されている。

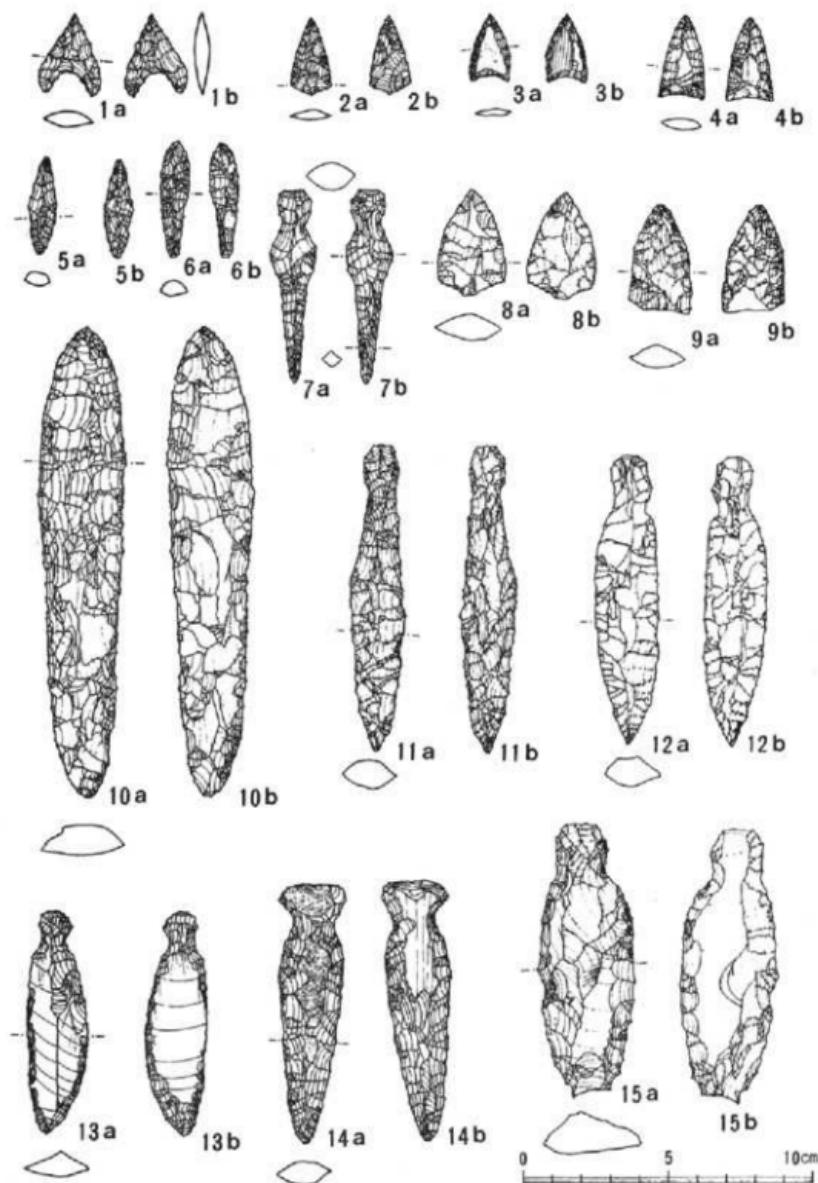
II 石器〔第37図 第38図 第42図版 第43図版 第44図版〕

No. 25 遺跡から出土されている石器は、フレーク、チップ等の剥片を含め、3715点を数える。

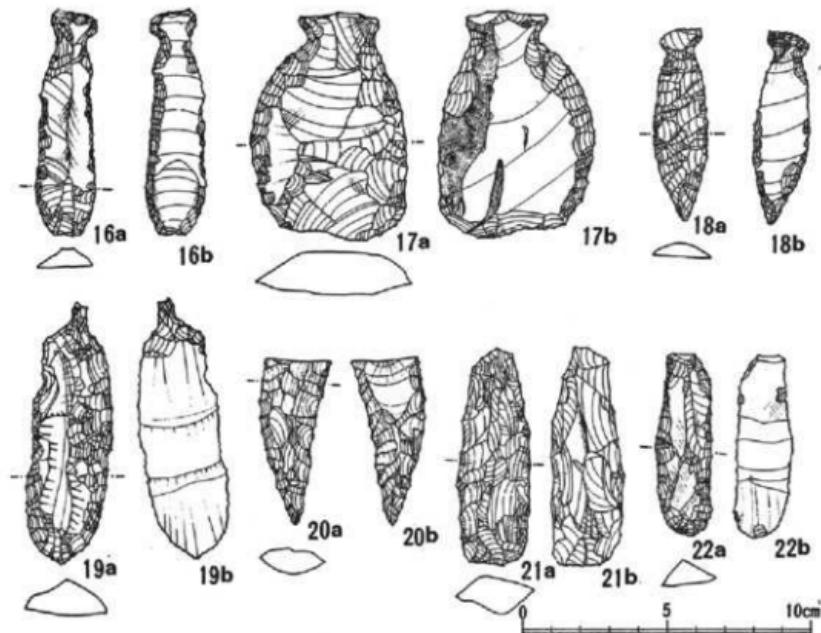
その中で、フレーク、チップが大半を占め、次に凹石、磨石の順に多い。形態の明瞭な(形の整っている)石器としては、石鎌、石匙ら合せて78点にとどまる。

なお出土地区、層位等の詳細は下記の「第9表 八幡原No.25遺跡出土石器分類表」を参照願うことにして、次に当遺跡より出土された代表的な石器を簡単に述べよう。

A 石鎌〔第37図1~6 第42図版1・2 第14図版、第42図版〕



第37図 八幡原No.25遺跡出土石器実測図(1)



第38図 八幡原No. 25 遺跡出土石器実測図(2)

23点検出されている。そのうちで1層～2層出土のもの5点、3層出土のもの6点、4層出土のもの5点、5層出土のもの7点と、5層、3層出土のものが多い。形態的には、三角形、二等辺三角形、棒状を示すものが多く、基部が急に内湾するもの第37図-1からく内湾するものの第37図-3・4、菱形状を呈するもの第37図-2、棒状を呈するもの第37図-5・6らがある。石質は硬質頁岩が多い。

B 石槍〔第37図-8～10 第16図版-1〕

5点出土している。第37図-10を除く他はいずれも欠損品である。第2層出土のもの1点、3層出土のもの2点、4層出土のもの1点、5層出土のもの3点と、5層出土のものが多く見られる。唯一の完成品第37図-10も5層出土のもので、両縁から主要剝離を施して成形している。石質はすべて硬質頁岩製である。

C 石匙〔第37図11～15 第38図16～20 第15図版、第43図版〕

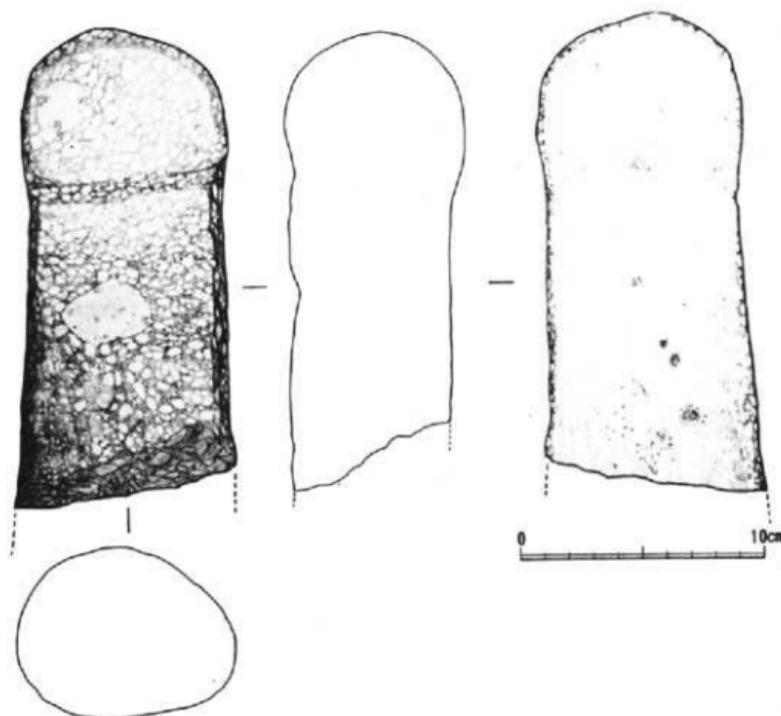
29点出土している。成形された石器の中で最も多く、2層出土のもの4点、3層出

土のもの9点、4層出土のもの3点、5層出土のもの7点、その他6点と、石鎚同様3層内出土のものが多い。形態的には、断面が凸レンズ状を示し、(a)基部が鋭く尖っているもの第37図11・12・15(15は未完成と思われる)(b)形態的には(a)と同じであるが、全体的に断面が平べったいもので両縁のみに加工を有するもの第37図13、第38図18。(c)基部が丸味を示すもの第38図16・19。(d)先端部に広面を呈し(ツマミ)そのまま基部の尖部に向うもの第37図14。(e)欠損品であるが、基部が幾分内湾しているもの第38図20。(f)その他ズングリしているもの第37図17。

石質は頁岩ならびに硬質頁岩である。

D 石ペラ〔第38図21・22 第43図版〕

9点出土している。3層出土のもの4点、4層出土のもの2点、5層出土のもの3点で、3層、5層出土のものが多く見られる。



第39図 八幡原No.25 遺跡出土石棒実測図

形態は両面加工で基部が平坦なもの第38図21と、片面加工で基部が丸味を呈するもの第38図22の二者がある。石質は頁岩、硬質頁岩製である。

以上その他の石器は「第9表 八幡原No.25遺跡の石器分類表」ならびに第43、44図版を参照されたい。

E 石棒〔第39図 第18図版2〕

5点出土されている。第2層3点、第3層1点、第4層1点となっており、いずれも欠損品である。第39図は、C-8区のフレーク群の中心より発見されたもので、下位を欠損している。現長20cm、頭部で9.5cm、中央部で8.5cmを有する。

石質は変成岩の一種であると思われる。

F 土製品〔第40図 第16図版2〕

土製品としては、土製耳飾り1点を含む11点検出されている。検出されているほとんどが第3層8点、第4層3点で占められている。

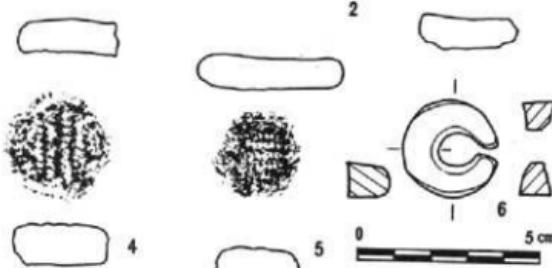
(a) 円盤形土製品 第40図-1~5

土器破片をカット
して円形状に成形し
たものである。



(b) 土製耳飾り

第40図6
第5層から出土し
たもので、径2.5cm
厚さ0.8cmを計る。
詳細は次の第10表を
参照願いたい。



G クルミ〔第57図版～

第74図版〕

第40図 八幡原No.25遺跡出土土製品実測図

C, D-5, 6区を。

中心に検出したもので、第3層121点、第4層375点の合計496点を数える。出土したクルミを第3層、第4層に大別して、クルミの形より13形態(グループ)に分類した〔第11表 八幡原No.25遺跡出土クルミ分類表を参照されたい〕。さらにクルミは「上叩き」「下叩き」に分類された〔第12表 八幡原No.25遺跡出土クルミ形態分類表参照されたい〕。

第8表 八幡原No.25遺跡出土土器拓本分類表

掲出番号	遺物番号	出土区域	層位	出土年・月・日	備考
第13図	1	D-5区	第3層	S 51. 9. 21	
第13図	2	C-8区	第3層	S 51. 9. 16	
第13図	3	A-1区	第3層	S 51. 6. 15	
第13図	4	B-6区	第3層	S 51. 9. 24	
第13図	5	C-7区	第4層	S 51. 9. 17	
第13図	6	D-3区	第3層	S 51. 5. 15	
第13図	7	D-3区	第3層	S 51. 5. 15	
第13図	8	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
第13図	9	B-2区	第3層	S 51. 5. 14	
第13図	10	C-8区	第4層	S 51. 9. 29	
第13図	11	C-6区	第3層	S 51. 10. 6	
第13図	12	C-D-6区	第3層上	S 51. 9. 16	
第13図	13	B-2区	第3層	S 51. 5. 14	
第12図	14	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第12図	15	C-7区	第5層	S 51. 10. 5	
第12図	16	C-8区	第5層	S 51. 10. 27	
第12図	17	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
第12図	18	C-8区	第5層	S 51. 10. 28	
第12図	19	C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	20	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	21	B-7区	第5層	S 51. 10. 5	
第12図	22	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	23	B-7区	第5層	S 51. 10. 5	
第12図	24	B-8区	第5層	S 51. 10. 23	
第12図	25	C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	26	B・C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	27	B-C-7区	第5層	S 51. 10. 7	
第12図	28	C-7区	第5層	S 51. 10. 2	

第12図	29	B・C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	30	B-7区	第5層	S 51. 10. 23	
第12図	31	C-8区	第5層	S 51. 10. 28	
第12図	32	B-8区	第5層	S 51. 10. 6	
第12図	33	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	34	B-7区	第5層	S 51. 10. 5	
第12図	35	C-7区	第5層	S 51. 10. 23	
第12図	36	B・C-7区	第5層	S 51. 10. 23	A
第12図	37	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	38	B-8区	第5層	S 51. 10. 5	
第12図	39	C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第12図	40	B-6区	第5層	S 51. 10. 5	
第12図	41	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第12図	42	B-7区	第5層	S 51. 10. 6	
第12図	43	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第12図	44	C-8区	第5層	S 51. 10. 23	
第12図	45	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第13図	46	B-8区	第5層	S 51. 10. 23	B
第13図	47	B-8区	第5層	S 51. 10. 23	B
第13図	48	B-7区	第5層下	S 51. 10. 23	
第13図	49	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
第13図	50	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第13図	51	C-8区	第5層	S 51. 10. 23	B
第13図	52	C-8区	第5層	S 51. 10. 28	
第13図	53	B-7区	第5層	S 51. 10. 23	
第13図	54	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第13図	55	B・C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第13図	56	B-2区	第5層	S 51. 10. 4	
第13図	57	C・B-7区	第5層	S 51. 10. 23	A
第13図	58	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第13図	59	B-7区	第5層	S 51. 10. 5	

第13図	60	B・C-7区	第5層	S 51. 10. 7	
第13図	61	C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第13図	62	B・C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
第13図	63	C-8区	第5層	S 51. 10. 28	
第13図	64	セクション	No. 1	S 51. 10. 29	
第13図	65	C-8区	第5層	S 51. 10. 28	
第13図	66	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	
第13図	67	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第13図	68	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第13図	69	C-9区	第5層	S 51. 5. 27	
第13図	70	C-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第13図	71	D-9区	第5層	S 51. 10. 27	
第13図	72	C-8区	第5層	S 51. 10. 23	
第13図	73	B-8区	第5層	S 51. 10. 5	
第13図	74	B-5区	第5層	S 51. 10. 23	
第16図	75	B・C-4区	第2層	S 51. 5. 17	
第16図	76	D-2区	カクラン層	S 51. 5. 12	
第16図	77	B-4区	第3層	S 51. 5. 19	
第16図	78	C-7区	第4層	S 51. 10. 1	
第16図	79	C-7区	第4層	S 51. 9. 24	
第16図	80	C-7区	第4層	S 51. 10. 9	
第16図	81	C-7区	第4層	S 51. 10. 9	
第16図	82	C-7区	第4層	S 51. 9. 17	
第16図	83	C-5区A	第4層	S 51. 10. 26	
第16図	84	A・C-1区	第3層下	S 51. 6. 28	
第16図	85	D-2区	第4層	S 51. 6. 7	
第16図	86	C-7区	第4層	S 51. 10. 1	
第16図	87	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第16図	88	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第16図	89	B-7区	第5層下	S 51. 10. 4	
第16図	90	B-5・6区	第4層	S 51. 9. 29	

第16回	91	D-2区	第2層	S 51. 6. 7	
第16回	92	B-5区	第4層	S 51. 10. 26	
第16回	93	C・D-7・8区	第4層	S 51. 7. 28	
第16回	94	C-7区	第4層	S 51. 10. 9	
第16回	95	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第16回	96	D-5区	第4層	S 51. 9. 21	
第16回	97	B-7区	第4層	S 51. 10. 26	
第16回	98	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第16回	99	B・C-7区	第4層	S 51. 9. 20	
第16回	100	D-2区	第2層	S 51. 6. 7	
第16回	101	C-7区	第4層	S 51. 9. 24	
第16回	102	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第16回	103	B-7区	第4層	S 51. 10. 26	
第16回	104	B・C-7区	第4層	S 51. 9. 20	
第16回	105	B・C-7区	第4層	S 51. 9. 20	
第16回	106	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第16回	107	C-7区	第4層	S 51. 9. 24	
第17回	108	C-5区(B)	第4層	S 51. 10. 26	
第17回	109	C-5区	第4層	S 51. 9. 21	
第17回	110	D-5区	第4層	S 51. 9. 21	
第17回	111	A ₁₀ ~D ₁₃ 区	第2層	S 51. 6. 23	
第17回	112	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第17回	113	C-4区	第2層	S 51. 5. 17	
第17回	114	C-7区	第4層	S 51. 10. 9	
第17回	115	D-7区	第4層	S 51. 9. 17	
第17回	116	C・D-	第3層	S 51. 6. 8	
第17回	117	C-7区	第4層	S 51. 9. 24	
第17回	118	B・C-7区	第4層	S 51. 9. 20	
第17回	119	C-7区	第4層	S 51. 9. 24	
第17回	120	B-7区	第4層	S 51. 9. 17	
第17回	121	C-9区	第4.5層	S 51. 10. 1	

第17回	122	A・B-5・6区	第1層	S 51. 5. 26	表土
第17回	123	C-5区	第4層	S 51. 9. 4	
第17回	124	C-7区	第4.5層	S 51. 10. 1	
第17回	125	C-6区(A)	第4層	S 51. 10. 26	
第17回	126	B-5区	第4層	S 51. 10. 26	
第17回	127	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第17回	128	C-1区	第3層	S	
第17回	129	C・D-7・8区	第4層	S 51. 7. 28	
第17回	130	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	
第17回	131	C-5区	第4層	S 51. 10. 26	
第17回	132	A・B-5・6区	第1層	S 51. 5. 26	表土
第17回	133	B-7区	第4層	S 51. 10. 26	
第17回	134	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
第17回	135	C-7区	第4.5層	S 51. 10. 1	
第17回	136	B-7区	第4層	S 51. 10. 26	
第17回	137	B-5区(A)	第4層	S 51. 10. 26	
第25回	138	C・D-5・6区	第3層	S 51. 7. 16	
第25回	139	A・C- 12・13区	第2層	S 51. 6. 19	
第25回	140	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
第25回	141	C-5区	第2層	S 51. 6. 9	
第25回	142	C-1区	第3層	S 51.	
第25回	143	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 35
第25回	144	C-8区	第5層	S 51. 10. 27	
第25回	145	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 35
第25回	146	C-5区	第3層下	S 51. 9. 22	
第25回	147	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第25回	148	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 30
第25回	149	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
第25回	150	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 30
第25回	151	B-2区	第3層	S 51. 5. 1	
第25回	152	A・B-7～9区	第2層	S 51. 7. 5	

第25図	153	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No.30
第25図	154	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No.30
第25図	155	C-7区	第2層下	S 51. 9. 22	
第25図	156	A-9・10区	第2層下	S 51. 6. 20	
第25図	157	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第25図	158	B-6区	第5層	S 51. 10. 5	
第25図	159	C-7区	第3層	S 51. 6. 7	A・No.30
第25図	160	C-7区	第2層下	S 51. 9. 22	
第25図	161	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
第25図	162	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第25図	163	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
第25図	164	C-3区	第3層	S 51. 5. 18	
第25図	165	C-3区	第3層	S 51. 5. 17	
第25図	166	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第26図	167	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第25図	168	A~C-1区	第3層	S 51. 6. 15	
第25図	169	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No.29
第25図	170	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 28	
第25図	171	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	A・No.15
第25図	172	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第25図	173	B-2区	第3層	S 51. 6. 9	A・No.9
第25図	174	C・D-8区	第2層	S 51. 9. 30	
第25図	175	B・C-7~10区	第3層	S 51. 10. 8	
第25図	176	B・C-7~10区	第3層	S 51. 10. 8	
第25図	177	B・C-7~10区	第3層	S 51. 10. 8	
第26図	178	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第26図	179	A~C-12・13区	第2層	S 51. 6. 19	
第26図	180	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第26図	181	B-6区	第3層	S 51. 9. 24	
第26図	182	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
第26図	183	C-2区	第2層	S 51. 6. 8	A・No.22

第 26 図	184	B-5 区	第3層	S 51. 9. 22	
第 26 図	185	B・D-12 区	第2層	S 51. 7. 15	
第 26 図	186	B・D-12 区	第2層	S 51. 7. 15	
第 26 図	187	C-5 区	第3層下	S 51. 9. 22	
第 26 図	188	C-5 区	第3層下	S 51. 9. 22	
第 26 図	189	B-2 区	第3層	S 51. 5. 11	
第 26 図	190	D-2 区	第3層	S 51. 6. 8	
第 26 図	191	C-3 区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 11
第 26 図	192	C-6 区	第3層	S 51. 10. 6	
第 26 図	193	C・D-5・6 区	第3層下	S 51. 7. 20	
第 26 図	194	C-2 区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 35
第 26 図	195	D-2 区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 20
第 26 図	196	A～C-1 区	第3層	S 51. 6. 15	
第 26 図	197	A～C-1 区	第3層	S 51. 6. 15	
第 26 図	198	B-6 区	第3層	S 51. 9. 29	
第 26 図	199	C-3 区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 25
第 26 図	200	A～C-1 区	第3層	S 51. 6. 15	
第 26 図	201	C-3 区	第3層	S 51. 6. 7	
第 26 図	202	B-7 区	第3層	S 51. 10. 4	
第 26 図	203	A・B-7・8 区	第1層	S 51. 5. 27	表土
第 26 図	204	B-2 区	第3層	S 51. 5. 1	
第 26 図	205	C-3 区	第3層	S 51. 6. 7	
第 26 図	206	B・C-7 区	第5層	S 51. 10. 23	A
第 26 図	207	セクション	No 1		
第 26 図	208	C-11 区	第2層下	S 51. 10. 2	
第 26 図	209	C-4 区	第3層	S 51. 5. 19	
第 26 図	210	C・D-5・6 区	第3層	S 51. 7. 16	
第 26 図	211	B-10～12 区	第2層	S 51. 9. 13	
第 26 図	212	A・B-4 区	第2層	S 51. 5. 18	
第 26 図	213	A・B-4 区	第2層	S 51. 5. 18	
第 27 図	214	C-5 区	第3層下	S 51. 9. 21	

第21図	215	B-2区	第3層	S 51. 5. 14	
"	216	A・B-7~9区	第2層	S 51. 9. 5	
"	217	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No11
"	218	C-3区	第3層	S 51. 5. 18	
"	219	D-8区	第2層上	S 51. 9. 12	表土
"	220	C-4区	第3層	S 51. 5. 19	
"	221	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
"	222	D-8区	第2層上	S 51. 9. 12	
"	223	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No30
"	224	B-2区	第3層	S 51. 6. 8	A・No 9
"	225	B-6区	第3層	S 51. 9. 24	
"	226	C・D-9~11区	第2層下	S 51. 10. 2	
"	227	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
"	228	C-12・13区	第2層	S 51. 7. 6	
"	229	A・C-12・13区	第2層	S 51. 6. 19	
"	230	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
"	231	D-5区	第3層	S 51. 9. 21	
"	232	C・D-9~11区	第2層下	S 51. 10. 2	
"	233	セクション	No 13	S 51. 10. 29	
"	234	セクション	No 13	S 51. 10. 29	
"	235	セクション	No 13	S 51. 10. 29	
"	236	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 36
"	237	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 36
"	238	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
"	239	B-2区	第3層	S 51. 6. 8	A・No 9
"	240	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 11
"	241	B-7区	第3層	S 51. 10. 4	
"	242	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 35
"	243	C-2区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 35
"	244	C-2区	第2層		A・No 22
"	245	C-6区	第3層	S 51. 10. 6	

第28図	246				
"	247	D-3区	第2層	S 51. 5. 17	
"	248	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	A・No 29
"	249	A～C-1区	第3層	S 51. 6. 28	
"	250	C～D	第3層	S 51. 6. 8	
"	251	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
"	252	C-3区	第3層	S 51. 5. 18	
"	253	B・D-12・13区	第2層	S 51. 7. 5	
"	254	B-1区	第3層	S 51. 6. 14	
"	255	B-7区	第5層	S 51. 10. 14	
"	256	A・B-7～9区	第2層	S 51. 7. 5	
"	257	A～C-13区	第2層	S 51. 6. 19	
"	258	セクション	No 1	S 51. 10. 29	
"	259	C-2区	第2層	S 51. 6. 8	A・No 22
"	260	A～C-1区	第3層	S 51. 6. 15	
"	261	B-2区	第3層	S 51. 6. 8	A・No 9
"	262	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
"	263	C・D-8区	第4層	S 51. 9. 30	
"	264	C-7区	第3層	S 51. 9. 22	
"	265	A～C-12・13区	第2層	S 51. 9. 19	
"	266	A～C-12・13区	第2層	S 51. 9. 19	
"	267	C-7区	第2層下	S 51. 9. 22	
"	268	C-3区	第3層	S 51. 5. 18	
"	269	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	
"	270	B-5区	第3層	S 51. 9. 16	
"	271	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 28	
"	272	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	
"	273	B-2区	第3層	S 51. 5. 1	
"	274	B-2区	第3層	S 51. 5. 1	
"	275	D-5区	第3層	S 51. 9. 22	
"	276	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	

第28図	277	A-9・10区	第2層下	S 51. 6. 20	
"	278	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
"	279	C-8区	第5層	S 51. 10. 28	
"	280	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
"	281				
第34図	282	B-3区	第3層	S 51. 7. 8	
"	283	B-6区	第2層	S 51. 6. 4	
"	284	B・C-7区	第4層	S 51. 9. 20	
"	285	D-3・4区	第3層	S 51. 5. 18	
"	286	C・D-7・8区	第3層上	S 51. 7. 28	
"	287	B・C-7区	第4層	S 51. 9. 20	
"	288	C・D-2区	配石造構	S 51. 5. 27	第2層
"	289	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	
"	290	C-3区	第4層	S 51. 7. 8	
"	291	C・D-3区	第3層	S 51. 5. 18	
"	292	D・C-2・3区	第2層	S 51. 10. 1	
"	293	D-6区	第4層	S 51. 10. 26	
"	294	B-2区	第3層	S 51. 6. 8	A・No.9
"	295	B-3区	第2層	S 51. 5. 14	
"	296	C-3区	第3層	S 51. 5. 8	
"	297	D-5区	第3層	S 51. 9. 21	
"	298	B-4区	第2層	S 51. 5. 22	
"	299				
"	300	C-3区	第3層	S 51. 5. 8	
"	301	C・D-5・6区	第3層	S 51. 7. 14	
"	302	C・D-6区	第3層上	S 51. 8. 16	
"	303	B-5区	第3層	S 51. 9. 27	
"	304	C・D-5・6区	第3層上	S 51. 7. 14	
"	305	C・D-9~11区	第2層下	S 51. 10. 2	
"	306	C・D-5~8区	第3層	S 51. 7. 15	-
"	307	C-3区	第3層	S 51. 7. 7	

第34図	308	B~D-6・7区	第3層	S 51. 10. 7	
"	309	C~D-5・6区	第3層	S 51. 7. 16	
"	310	C~D-7・8区	第3層上	S 51. 7. 15	
"	311	C~D-5区	第3層	S 51. 9. 16	
"	312	B-4区	第2層	S 51. 5. 22	A・No 4
"	313	B-6区	第5層	S 51. 10. 2	構状遺構
"	314	B-6区	第4層	S 51. 10. 2	構状遺構
"	315	D-6区	第4層	S 51. 10. 26	構状遺構
"	316	C-6区A)	第4層	S 51. 10. 26	
"	317	C-7区	第3層	S 51. 9. 22	構状遺構
"	318	C・D-3区	第3層	S 51. 5. 18	
第35図	319	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	A・No 15
"	320	C・D-7・8区	第3層上	S 51. 9. 16	
"	321	C・D-5区	第2層下	S 51. 9. 16	
"	322	D-3・4区	第3層	S 51. 5. 18	
"	323	C・D-5・6区	第3層	S 51. 7. 15	
"	324	C・D-5・6区	第3層	S 51. 7. 16	
"	325	B-4区	第2層	S 51. 5. 23	A・No 4
"	326	C-4区	第4層	S 51. 7. 8	
"	327	A-5区	第2層	S 51. 6. 9	
"	328	D-6区	第4層	S 51. 9. 16	
"	329	B-4区	第3層	S 51. 5. 20	A・No 5
"	330	D-2区	カクラン層	S 51. 5. 12	表土
"	331	B-4区	第2層	S 51. 5. 22	A・No 4
"	332	B-6区	第2層	S 51. 6. 4	
"	333	C・D-3区	第3層	S 51. 5. 18	
"	334	D-3区	第2層	S 51. 5. 17	
"	335	C-3区	第3層	S 51. 5. 11	
"	336	B-7・8区	第3層	S 51. 9. 25	
"	337	A・B-7・8区	第3層	S 51. 7. 7	
"	338	D-3区	第3層	S 51. 5. 15	

第35図	339	C-12・13区	第2層	S 51. 7. 6	
"	340	B・C-8区	第3層下	S 51. 9. 17	
"	341	C・D-2区	第2層	S 51.	配石遺構
"	342	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	A・No.15
"	343	C・D-8区	第2層下	S 51. 7. 3	
"	344	B-5区	第2層	S 51. 6. 4	
"	345	C・D-5・6区	第3層	S 51. 7. 16	
"	346	C-5区	第3層下	S 51. 9. 22	
"	347	C-7区	第3層上	S 51. 6. 16	
"	348	B-4区	第2層	S 51. 5. 22	A・No.4
"	349	D-3・4区	第2層	S 51. 5. 18	
"	350	C・D-5区	第3層	S 51. 9. 16	
"	351	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	
"	352	B・C-8区	第3層下	S 51. 9. 17	
"	353	C・D-5・6区	第3層上	S 51. 7. 10	
第36図	354	C・D-7・8区	第3層上	S 51. 7. 16	
"	355	C・D-3区	第2層下	S 51. 6. 1	A・No.15
"	356	C・D-5・6区	第2層	S 51. 7. 16	
"	357	D-6区	第2層下	S 51. 9. 18	
"	358	C・D-2・3区	第3層	S 51. 6. 1	
"	359	C-2区	第3層	S 51. 6. 2	
"	360	C・D-5・6区	第3層	S 51. 7. 16	
"	361	C・D-8区	第2層下	S 51. 7. 8	
"	362	C・D-7・8区	第3層上	S 51. 7. 28	
"	363	B-8区	第4層	S 51. 10. 23	
"	364	B-5区	第3層	S 51. 9. 22	
"	365	B-8区	第3層	S 51. 10. 23	
"	366	C・D-7・8区	第3層	S 51. 7. 16	

第9表 八幡原No.25 遺跡出土石器分類表

石 鑄 23点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備 考
19	A-B-5-6区	第1層	S 51. 5. 26	
4	A-C-12-13区	第2層上	S 51. 6. 13	
14	E-7区	第2層下	S 51. 9. 22	第37図-2
18	B-2区	第2層	S 51.	第37図-3
22	B-2区	第2層	S 51.	
15	CD-3区	第3層	S 51. 5. 18	
16	C-3区	第3層	S 51. 6. 7	
17	B-7区	第3層	S 51. 9. 20	第37図-5
5	C-2区	第3層下	S 51. 6. 24	第37図-1
7	B-5区	第3層	S 51. 9. 20	第37図-6
9	C-5区	第3層	S 51. 9. 16	
1	C-2区	第4層	S 51. 10. 1	
2	B-7区	第4層	S 51. 9. 17	
12	C-8区	第4層	S 51. 9. 18	
20	B-6区	第4層	S 51. 10. 4	
23	B-6区	第4層	S 51. 10. 4	
3	B-7区	第5層	S 51. 10. 6	
6	C-7区	第5層	S 51. 10. 2	
8	B-8区	第5層	S 51. 10. 8	
10	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
11	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	第37図-4
13	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
21	C-8区	第5層B	S 51. 10. 23	

石 槌 7点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備考
3	C-3区	第2層	S51.5.18	第37図-8
1	B-6区	第3層	S51.9.24	
6	B-2区	第3層	S51.5.14	
4	C-8区	第4層	S51.9.18	
5	B-7区	第5層	S51.10.4	第37図-10
7	B-8区	第5層	S51.10.23	
2	B-7区	第5層	S51.10.4	第37図-9

石 匙 29点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備考
20	C-7区	第2層	S51.6.4	
8	A-B-7-8区	第2層下	S51.7.7	
15	B-5-7区	第2層下	S51.6.24	第38図-17
26	B-P-5-7区	第2層下	S51.7.9	
1	C-6区	第3層	S51.9.21	第37図-12
2	C-5区	第3層	S51.10.21	第37図-14
9	C-6区	第3層	S51.10.6	
10	D-3区	第3層	S51.5.18	第38図-16
12	B-2区	第3層	S51.5.14	
16	C-D-3区	第3層	S51.5.18	第37図-15
21	A-3区	第3層	S51.6.15	
27	C-3区	第3層	S51.5.17	
22	C-3区	第3層下	S51.6.7	
3	C-7区	第4層	S51.7.17	
6	B-8区	第4層	S51.9.27	第38図-20
18	C-8区	第4層	S51.10.1	第37図-11
4	B-7区	第5層	S51.10.6	第37図-13
5	C-8区	第5層	S51.10.2	

7	B-8区	第5層	S 51. 10. 2	
17	B-7区	第5層	S 51. 10. 5	
23	B-7区	第5層	S 51. 10. 6	第38図-18
24	D-9区	第5層	S 51. 10. 27	
28	D-9区	第5層	S 51. 10. 27	
11	A-D-8-9区	断面No 16	S 51. 10. 29	
19	A-D-8-9区	断面No 15	S 51. 10. 25	
13	D-2区	カクラン層	S 51. 5. 12	第38図-19
25		表採	S 51. 10. 20	
29	セクション区	No 1	S 51. 10. 30	
14	D-3区	カクラン層	S 51. 5. 15	

石 ベ ラ 9点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備考
9	D-5区	第3層	S 51. 9. 21	
5	B-4区	第3層	S 51. 5. 19	
7	B-2区	第3層	S 51. 5. 14	
8	AB-2・3区	第3層	S 51. 6. 7	
1	C D-5区	第4層	S 51. 9. 16	
3	C-5区	第4層	S 51. 9. 25	第38図-21
2	B-7区	第5層	S 51. 10. 6	第38図-22
6	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
4	第3区	第5層	S 51. 7. 6	

磨製石斧 3点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備考
1	B C-B区	第2層	S 51. 5. 17	
2	A-9-10区	第2層下	S 51. 6. 20	
3	D-7区	第4層	S 51. 10. 26	

石錐 3点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備考
2	A-C-1-4区	第3層	S 51. 10. 5	
3	C-4区	第3層	S 51. 6. 8	第37図-7
1	B-6区	第5層下	S 51. 10. 5	

不定形 4点

遺物番号	出土区域	層位	出土年月日	備考
1	D-4区	第3層	S 51. 5. 19	
2	B-7区	第5層	S 51. 10. 23	
3	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	
4	B-7区	第5層	S 51. 10. 4	

その他の石器 3637点

石棒 5点	凹石 122点
磨石 32点	礫 190点
石皿 13点	コア 5点
フレークチップ	3,270点

石器総数 3715点

第14章

第10表 八幡原No.25遺跡出土円盤形土製品(11点)

円盤形土製品(11点)

遺物 No.	出 土 区 域	層 位	出土年月日	備 考
No. 7	A-D-12-13区	第3層上	S 51. 6. 19	第40図-3
No. 8	A-B-6区	第3層	S 51.	第40図-3
No. 2	C-7区	第3層	S 51. 9. 22	
No. 3	D-9区	第3層下	S 51. 10. 2	
No. 6	A-D-7区	第3層下	S 51. 7. 9	
No. 10	C-D-7区	第3層下	S 51. 9. 18	
No. 11	C-D-5・6区	第3層上	S 51. 7. 16	
No. 5	C-D-5・6区	第3層	S 51. 7. 15	第40図-2
No. 1	C-5区	第4層	S 51. 9. 22	耳飾り第40図-6
No. 4	C-5区	第4層	S 51. 9. 24	第40図-1
No. 9	B-C-8区	第4層	S 51. 9. 17	

第11表 八幡原No.25遺跡出土クルミ分類表

遺物 No.	出 土 区 域	層 位	出土年月日	個 数
No. 1	C-D-5・6区	第3層下	S 51. 7. 28	62ヶ
No. 2	E-6区	第3層	S 51. 7. 8	4
No. 8	C-6区	第3層	S 51. 9. 16	42
No. 11	C-6区	第3層	S 51. 9. 18	13
No. 3	C-6区	第4層	S 51. 9. 17	28
No. 4	D-5区	第4層	S 51. 9. 21	8
No. 5	D-6区	第4層	S 51. 9. 17	8
No. 6	C-D-8区	第4層	S 51. 9. 20	2
No. 9	D-5区	第4層	S 51. 7. 27	49
No. 12	C-5区	第4層	S 51. 9. 24 25	268
No. 7	C-6区	第4層下	S 51. 10. 5	5
No. 10	C-8区	第4層下	S 51. 10. 25	7
計				496

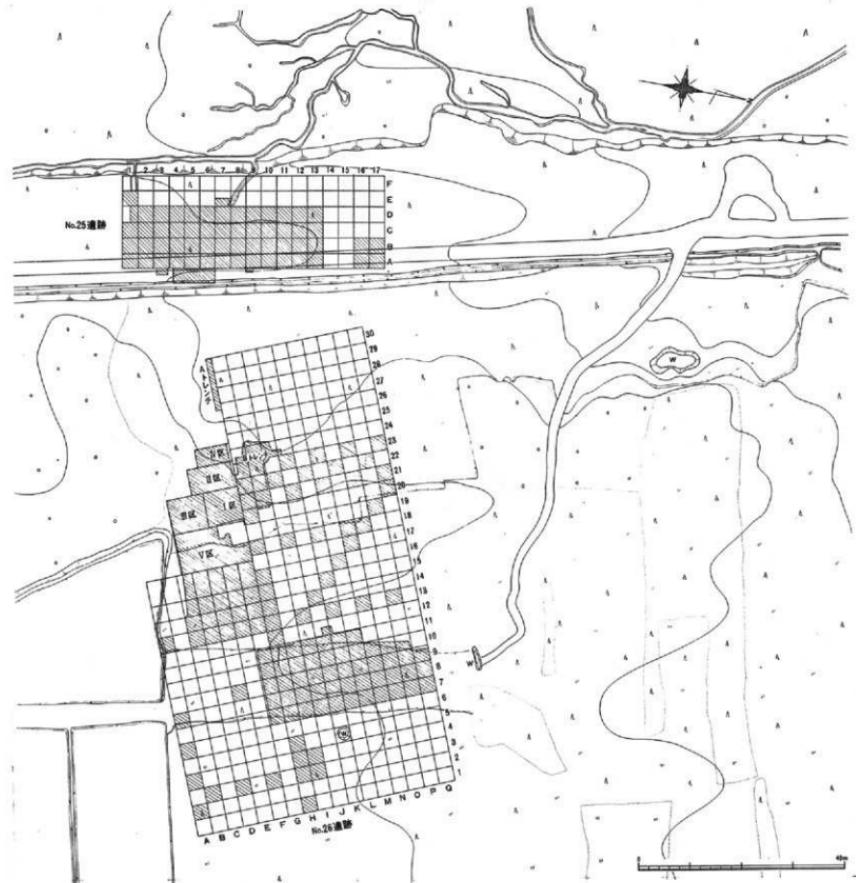
第12表 八幡原No.25 遺跡出土クルミ形態分類表

グループ	個数	クルミの割り方		計測不能	平均値		備考
		上叩き	下叩き		長径	短径	
1	16ヶ	12ヶ	4ヶ	0ヶ	3.2cm	3.2cm	
2	54	16	8	30	2.6	2.7	
3	13	13	0	0	2.9	2.3	
4	30	21	6	3	3.8	3.0	
5	10	8	2	0	2.8	2.3	
6	44	9	12	23	2.7	2.5	
7	35	2	27	6	3.5	2.9	
8	44	2	38	4	3.7	2.7	
9	72	2	60	10	3.6	2.7	
10	26	4	12	10	3.4	2.9	
11	38	12	12	14	3.8	2.5	
12	35	4	11	20	3.0	2.4	
13	79	12	36	31	3.0	2.7	
計	496	117	228	151			

III その他の遺物〔第21図版2 第41図版1・2〕

その他の遺物としては漆器2点、木材10点、木柱6点がある。「漆器」は、D-6区第2層下1点と、D-4区、第2層下1点でD-6区より、検出したものは内反する深鉢土器の中より出土したもので、直径8cm、深4cm位の椀で他の1点も形は崩れているが同様の大きさを呈するものと思われる。

縄文時代の漆器は、撫文晩期の遺跡で何ヶ所か発見されているが、撫文中期のものとしては全国的に非常に珍しい。



第41図 八幡原No.25, 26遺跡グリッド配図

第15章 No.26 (八幡原B) 遺跡

1 遺跡の概要

No.26 遺跡は前述のNo.25 遺跡と同様に、No.24, 23 遺跡方向からのがる舌状微高台地の、標高 255 m^①に位置し、八幡原遺跡群の中では最大の遺跡面積を有する遺跡の一つである。同じ前期、中期の遺跡が存在する先のNo.25 遺跡とは雑木林を境にして 50 m²と離れてなく、本遺跡とNo.25 遺跡とは連続しているものと思われる。また今回の調査から判断して、面積もNo.25, 26 遺跡合せて約 40,000 m²に及ぶ大複合遺跡であるものと判明している。

遺跡の発見は昭和 39 年 7 月頃、筆者によって発見され、以後数回の試掘を含め、遺跡の範囲と遺跡の性格把握を中心に行なって来た。その結果、本遺跡は縄文早期、前期初頭、前期末、中期後葉などの貴重な遺跡が眼る大規模な複合遺跡であると判明している。^②なかでも特に注目に値するのは縄文中期の遺跡群で、縄文中期後葉の堅穴住居跡と住居に伴う土器埋設石組複式炉それに完形土器三個体分を含む土器と、土器片が多量に検出されている。このことはすでに「八幡原埋蔵文化財調査報告書」(第1集)のIV、「從來の考古学的調査」第2節No.26 (堂森B) の中で詳しく述べてあるので、参照願いたい。^③今回は前の小調査で確認した遺構の中で十分検討に至らなかった個所と、今回新たに検出された遺構成果などを加え、遺構ならびに出土遺物の二者に大別して述べたい。

2 調査の経過(第41図)

本遺跡の調査は、前述のNo.25 遺跡発掘途上で中断し、以前に筆者らが確認している住居跡を中心に進めることとした。当初 7 月 2 日より 8 月 17 日まで集中的に本遺跡に当たり、後 8 月 18 日から 10 月 30 日まで No.25 遺跡と平行して調査を進めた。グリッドは 3 m × 3 m を基本とし、遺跡の中心部にそって、30 m × 90 m (2,700 m²) を設定した。調査は、A-2, 4, 6, 8, 13, B-3, C~G-13~17, D-3, E-9, F-3, G~Q-7-12, H-1・3~5, 12~16・18・20~22, 1-3・4, 21~23, J-13・18・22, K-14・21・23, L-13, 15・18・22, M-16・21・23, N-13・17・18・22, O-18, 21・23, P-13・19・22, Q-20~23, それに遺構確認トレンチ G-27~30 区と、H~K-24 区 13 トレンチの 2 本の合せて T37 グリッド、2 トレンチ 1,253 m²、また既に前述しているように以前の調査で確認した住

居跡付近は、作業場の都合でグリッドを設定せずに、 $7m \times 7m$ ($49m^2$) を1区とし、次に西方の拡張部 $9m \times 5m$ ($45m^2$) をII区、南側に $7m \times 7m$ ($49m^2$) をIII区、さらにII区の西側 $7m \times 4m$ ($24.5m^2$) をIV区、I区III区の東側 $7m \times 14m$ ($98m^2$) をV区とした。この各区域は第V区に一部未開調査部分（立木有り）を残す全発掘面積は第I区～第V区合計 $247m^2$ 、No. 26 遺跡全体で $1,500m^2$ を精査した。

遺構は第I区～第V区拡張部と、G～Q-7～11区拡張部の二ヶ所より集中して確認され、前者は縄文期の住居跡、他の遺構群が後者の拡張部からは近代期と思われる墓壙群、火葬跡が検出されている。

3 遺構〔第42図〕

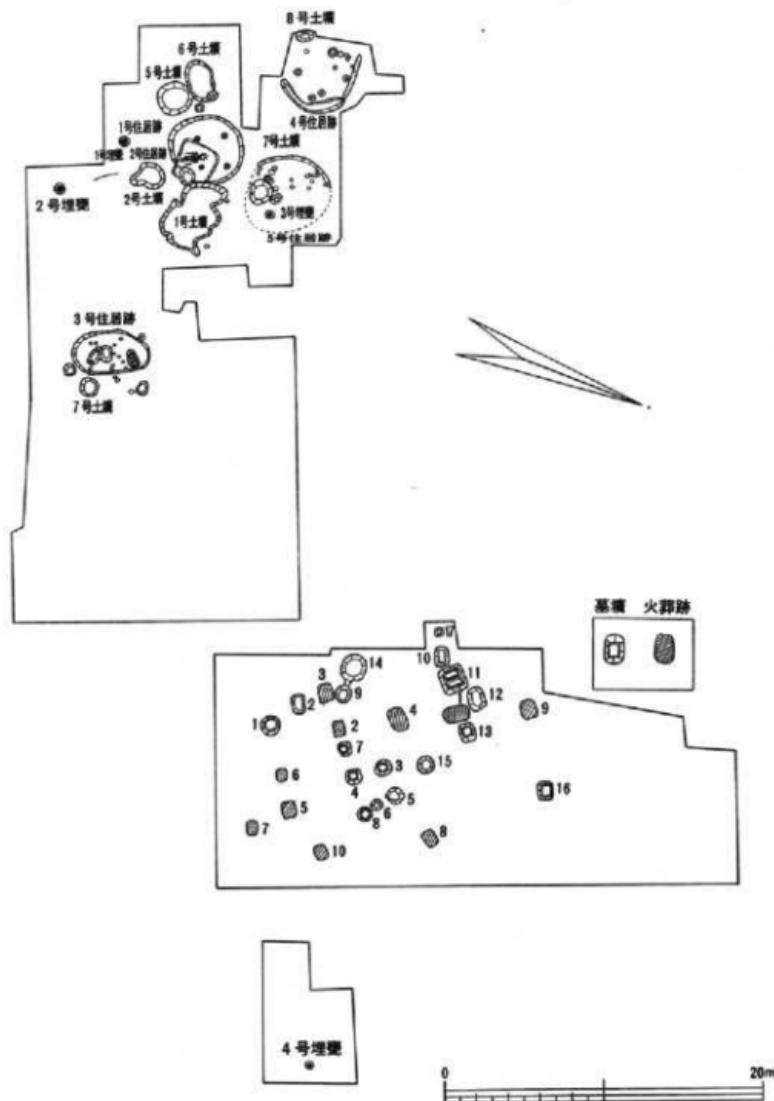
本遺跡より発見された遺構としては既に前節でも述べているように、第I区～第V区拡張部とG～Q-7～11区拡張部の二ヶ所より確認されている。前者では縄文前期、中期を中心として住居跡5棟、土壙10基それに埋甕遺構3基の18基が発見され、後者のG～Q-7～11区拡張部からは近世期の遺構を中心に土壙墓16基、同火葬跡10基、縄文中期の埋甕遺構1基の計27基の遺構が検出された。特にG～Q-7～11区を中心として発見された近世期の墓跡はまったく予想しなかった発見であり、調査の予定を大きく変向する結果となったことはいうまでもない。しかし一方では今回の発見を期に世界的な活躍をされておられる日本人類学界の権威、新潟大学医学部教授小片保先生を迎えて多くのご指導、ご協力を得たことは望外のよろこびとするものであった。本欄を借りて厚くお礼を申し上げる次第である。

なおここでこれらの遺跡群を時期別に述べれば次のようである。

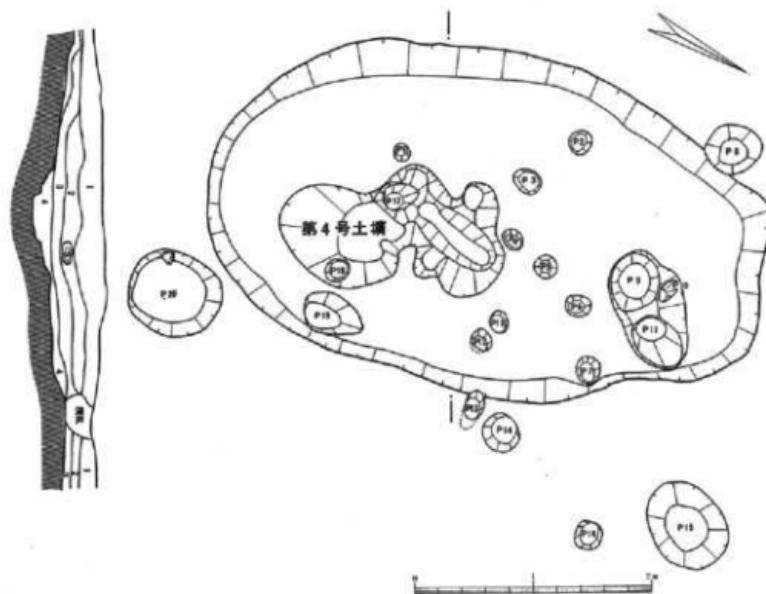
縄文前期初頭	堅穴住居跡	1棟
縄文前期末	堅穴住居跡	1棟
同	土 壙	3基
縄文中期後葉	堅穴住居跡	3棟
同	土 壙	7棟
同	埋 甕 遺 構	4基
近 代 期	土 壙 跡	16基
同	火 葬 跡	10基

合計34基の遺構が検出されている。これをさらに縄文期の遺構、近代期の遺構の二者に大別し、各遺構を簡単に述べたい。なお、この中で縄文期の遺構は、縄文前期初頭、縄

文前中期、縄文中期後葉と年代順に述べる。



第42図 八幡原No.26遺跡遺構配図



第43図 八幡原No.26遺跡第3号住居跡実測図

1 第3号住居跡（第42図、第43図）

第V区第3層上面より確認された堅穴住居跡である。主軸をほぼ北方に向け、南北 4.8m^t 、東西 3m^t を呈す。

住居形状は不整の橢円形状を呈す。

壁一は一定しないが南方で 15cm 、北方で 10cm 、平均 12cm 位である。周溝はなかった。柱穴は一住居跡内からは柱穴と思われるピットとして、P 1, P 12, P 17~P 19の15ヶ所存在する。ただし、これらのピットがどのように柱穴として伴うものかはわからない。

床一ほぼ平坦である。特に固く踏み固められたような部分はなかったが、全体としてしまっている。

土壤一は住居跡内に一基（第4号土壤）、住居東側に一基（第7号土壤）があるが住居跡に伴うものかはわからない。ただし、第4号土壤に関しては内部に多量の木炭粒と